

事務事業点検・評価結果まとめ

ページ	具体的施策名	内部評価	外部評価
22	教育環境の整備と支援の充実	B	A
23	学校教育環境整備の充実	A	B
24	小中一貫教育の推進	A	A
25	学校給食の充実	C	B
26	名護市立教育研究所運営の充実	A	A
27	学力向上推進事業の充実	A	B
28	I C T（情報通信技術）を活用した教育の推進	A	B
29	国際社会に対応できる人材の育成	A	A
30	キャリア教育の充実	A	A
31	幼児教育の充実	A	B
32	教育関係機関等との連携	A	A
33	心豊かな人間性を育む教育の推進	A	C
34	人権教育や平和学習の充実	A	A
35	生徒指導の充実	A	A
36	特別支援教育の充実	A	A
37	文化財の保全及び普及活用	A	C
38	博物館活動の充実	A	A
39	市民の市史づくり	A	A
40	新博物館の建設	A	A
41	市民に開かれた利用しやすい図書館運営	A	A
42	全市民へ公平なサービスの提供	A	A
43	市民会館事業の充実	A	C
44	次世代の芸術文化を担う人材育成の推進	A	C
45	中央公民館の充実	A	B
46	地域公民館の充実	A	D
47	スポーツ活動事業の推進	A	D
48	青少年のスポーツ活動の推進	B	D
49	競技スポーツの推進	B	D
50	社会体育施設の整備	A	D
51	青少年の健全育成事業の充実	B	D
52	家庭教育の支援	B	C
53	地域の教育力の充実	A	D
54	社会教育団体の活性化	B	D

具体的施策名	教育環境の整備と支援の充実	主管課	総務課 学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(1)	教育環境の整備と支援の充実

目的	教育委員会事務局並びに市立幼稚園、小学校及び中学校の教育環境の整備と支援の充実を図る。
----	---

主な取組	① 「名護市教育の日」の充実 取組の内容：1月第3日曜日を「名護市教育の日」と定め、式典やシンポジウムを行う。また、1月を「名護市教育月間」と定め、様々な関連行事を開催する。	平成27年度現状		現状をもたらした原因		
		「名護市教育の日」が市民へまだ浸透していない。		認知度不足。市民や保護者を巻き込んだ取組が必要。		
		平成30年度	平成27年度	取組概要	成果及び反省点	
	目標	目標	・平成28年1月17日式典及び子どもシンポジウムの開催(参加者661人) 教育功労者個人9人、児童生徒表彰個人8人、1団体 子どもシンポジウム7校(羽地小・屋部小・大宮小・東江小・久辺小・屋部中・羽地中) ・教育の日関連事業:8事業	参加者が目標の700人に届かなかった。次年度は、市民や保護者を巻き込んだ活動を推進し、参加者の増を目指し、「教育の日」の認知度を上げたい。		
	「教育の日」の認知度を上げ、市民を巻き込んだ運動へとつなげる。	式典及びシンポジウム参加者の増を目指し、「教育の日」の認知度を上げる。			実施値	661人
	目標値	1,000人			目標値	700人
	成果指標	式典及びシンポジウムの参加者				
	② 学校評議員制度の充実 取組の内容：地域住民の学校運営への参画を促し、また学校運営について地域へ周知するための学校評議員制度を充実させる。					
	平成27年度現状		平成27年度現状		現状をもたらした原因	
	全学校に学校評議員会が設置されている。年1回委嘱状の交付式並びに研修会を開催し、講師を招き「学校評議員の役割と目指す方向」という演題で講話、充実を図っている。		学校評議員にその役割を理解してもらいたい、学校評議員制度の充実を図る必要がある。学校教育法施行規則等の一部を改正する省令(平成12年4月1日施行)学校・家庭・地域が連携協力しながら一体となって子どもの健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、学校に、学校評議員を置くことができるようになった。			
	平成30年度	平成27年度	取組概要	成果及び反省点		
	目標	目標	学校評議員委嘱状交付式並びに研修会参加:35人/62人(56.4%) 学校評議員会の開催:全学校2回達成 学校評議員会への参加率:94%	委嘱状交付式並びに研修会の参加率を高める工夫が必要		
学校評議員制度の更なる充実を図る	学校評議員制度の更なる充実を図る	実施値			全学校2回	56%
目標値	年2回以上	目標値			100%	80%
成果指標	学校評議員会の開催状況					
	評議員の学校評議員会への参加率					
	学校評議員の研修会への参加率					
③						
取組の内容:		平成27年度現状		現状をもたらした原因		
平成30年度	平成27年度	取組概要	成果及び反省点			
目標	目標					
目標値	目標値					
成果指標						
④						
平成27年度現状		平成27年度現状		現状をもたらした原因		
平成30年度	平成27年度	取組概要	成果及び反省点			
目標	目標					
目標値	目標値					
成果指標						

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	学校評議員制度は、学校からの報告などが主になっているので交互に意見の交換ができる関係の構築が必要と思う委嘱状交付式並びに研修会への参加率が59%は大きな問題だと思う。30年度の目標値は可能か。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	教育の日については、実質学校行事の延長となっていて、市民の巻き込みへ次の段階の取り組みに期待します。動員人数だけが成果指標というのも検討の余地があると思います。学校評議員制度も実質的な議論になっているか、今一度あり方を検討する余地はあると思います。

具体的施策名	学校教育環境整備の充実	主管課	教育施設課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(2)	学校教育環境整備の充実

目的	子ども達にとってより良い教育環境の提供を行なうため、その支援と充実を図る。
----	---------------------------------------

① 学校施設設備及び遊具等の整備・修繕	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 学校からの整備設置修繕要請を受け現場調査を行い、整備及び修繕を行なっている。	幼稚園21件、小学校101件、中学校47件、合計169件の修繕対応(事務局執行分予算のみのため、施設課職員及び学校予算対応分については含まれません)遊具修繕が小学校5件、幼稚園3件、遊具の新規購入が小学校2件となっている。				施設設備の経年劣化によるものが原因と考えられる。		
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
成果指標	平成30年度	月1回程度の学校施設遊具点検を行い施設不備による事故の発生を防ぐ	平成27年度	年1回の学校施設遊具点検を行い施設不備による事故の発生を防ぐ	・修繕要請に基づく修繕対応 ・学校施設、遊具の定期的な点検の実施(年1回)		事故につながる施設遊具不備は0件であったが要請の前に不備箇所把握に努めた。	
		0件		0件			実施値	0件
		月1回		年1回				年1回
		目標値		目標値				
② 学校施設の耐震化事業	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 昭和56年以前の旧耐震基準に基づき建設された構造上危険な状態にある学校施設について、新增改築事業を実施し安全で安心な教育環境の整備を図る。	平成27年度は6件の事業を完了したが、平成28年度へ繰り越した事業は6件となった。また、屋我地小中学校については、平成28年4月に小中一貫教育校となることもあり、当初予定のスケジュールからは外れている。				・学校施設の耐震化事業の推進に伴い、平成27年度は繰越事業も重なり事業量が大幅に増え繁忙期となった。 ・業務に係る免許を有する委託職員を増員する予定であったが、該当する技術者の確保ができなかった。 ・屋我地小・中学校においては、小中一貫教育校に伴う施設の一体化に向けた調整を行う必要があり、耐震化の前倒しからは除くこととなった。		
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
成果指標	平成30年度	構造上危険な状態にある学校施設について新增改築事業を実施し、耐震化率100%を実現する。	平成27年度	屋我地小・中学校を除く学校施設の耐震化の完了	平成27年度に完了した事業 ・東江小学校校舎改築事業(3,790㎡) ・屋部小学校屋内運動場 ・羽地小学校校舎改築事業(2,672㎡) ・名護小学校校舎改築事業Ⅰ期(2,003㎡) ・名護中学校校舎改築事業Ⅰ期(1,547㎡) ・久辺中学校校舎改築事業Ⅰ期(301㎡)	平成28年度に繰越した事業 ・稲田小学校校舎改築事業(591㎡) ・名護小学校校舎改築事業Ⅱ期(2,163㎡) ・瀬喜田小学校校舎改築事業(1,022㎡) ・名護中学校校舎改築事業Ⅱ期(1,199㎡) ・久辺中学校校舎改築事業Ⅱ期(505㎡) ・羽地中学校校舎改築事業(2,119㎡)	新設校舎や仮設校舎の配置検討など学校側との調整に不測の時間を要したことから、事業の進捗に影響を及ぼした。	
		100%		98.20%			実施値	89.90%
		目標値		目標値				
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
成果指標	平成30年度		平成27年度					
		目標値		目標値			実施値	
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
成果指標	平成30年度		平成27年度					
		目標値		目標値			実施値	

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	施設設備及び遊具等の事前の事故を防ぐために、経年劣化の確認をまとめ、修繕に努める必要がある。施設・遊具の点検の目標値を年1回から月1回への実施は良い。専門業者や学校職員の点検の他に実際に利用する子ども達や保護者の声も聴いてみてはどうか。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	諸般の事情により工事に遅れが出てしまっているようで、大変だとは思いますが、遅れているのが現実なのでBとさせていただきます。

具体的施策名	小中一貫教育の推進	主管課	学校教育課 プロジェクトチーム	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(3)	小中一貫教育の推進

目的	二見以北地域及び屋我地地域の子どもたちにとって、より良い教育環境を提供する。
----	--

		平成27年度現状				現状をもたらした原因											
① 「緑風学園」の教育活動の充実 取組の内容： 小規模特任校制度や教育課程特例校（英語活動）を導入した特色ある教育活動の実施。		再び複式学級に陥らないよう特色ある学校づくりを行うため、平成21年度から教育課程特例校制度や小規模特任校制度を導入した小中一貫教育校の開校に向け、当該事業の取組を開始した。小規模特認校制度等を活用し転入学する児童生徒数は、H24年度1人、H25年度17人、H26年度2人、H27年度4人と推移している。				更なる教育環境の充実を図るため、緑風学園の特色ある教育活動の取組・実績を周知し、小規模特任校制度を活用するなど児童生徒増を図るための周知が必要である。											
	成果指標	児童生徒数		168人		159人		取組概要 ①非常勤講師1人を配置し、小中一貫教育の研究を行う本務教諭の後補充やTT授業を実施した。 ②特色ある教育活動の一つである英語教育の充実を図るため、日本人英語教師1人を配置し、学級担任とALTとの繋ぎを主体的に行い、より充実した英語教育を実施した。 ③中学生を対象に、年3回実施される英検のうち、その検定料を一人年1回全額助成を実施。児童生徒一人一人に基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせるため、TT授業や乗り入れ授業等により個別指導の徹底を行った。また、裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直しを全職員体制で計画的に行った。 英語科の授業では、学級担任とALT、JTE及び中学校英語教師によるTT授業や実技教科における部分的イマージョン教育の実施、小学校から文字指導を行った。 児童生徒一人一人の社会的・職業的な自立を目指し、キャリア教育を学校教育全体を通じて体系的に実施するとともに、自然体験学習や稲作等で地域人材等の活用を推進した。		成果及び反省点 開校から4年を経過したが、教職員の異動等もあり、今一度、開校当時の理念を教職員間で共通理解する必要が生じている。							
		非常勤講師の配置		1人		1人											
		日本人英語教師（JTE）の配置		1人		1人											
		沖縄県到達度調査（8年生5教科総合県比較）		+8		±0											
		英検合格率（3級以上）		50%		45%											
		職場体験・ジョブシャドウイング参加率		100%		100%											
		実施値		159人		1人		1人		+2.1		47%		100%			
		平成30年度		平成27年度		平成30年度		平成27年度		平成30年度		平成27年度		平成30年度		平成27年度	
		目標		目標		目標		目標		目標		目標		目標		目標	
		特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。	
		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増	
		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消	
		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）	
		目標		目標		目標		目標		目標		目標		目標		目標	
		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増	
		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消	
		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）	
		目標		目標		目標		目標		目標		目標		目標		目標	
		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増	
		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消	
		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）	
		目標		目標		目標		目標		目標		目標		目標		目標	
		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増		児童生徒数の増	
		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消		複式学級の解消	
		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）		小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の開校（H28）	

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価（アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D）	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	複式学級解消のために、より具体的な取り組みが必要である。反省点の表記どおり教職員（校長）の変動があっても開校時の理念のポイントを押さえた共通理解が必要。緑風学園については、色々な課題が見えてきたと思うので、より一層の支援を要請する。
外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価（アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D）	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	屋我地ひるぎ学園は開校にむけた取組みが進んだ。緑風学園は落ち着いてきたのと、継続的な取り組みを期待します。

具体的施策名	学校給食の充実	主管課	総務課 プロジェクトチーム	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(4)	学校給食の充実

目的	子どもたちにより安全・安心な学校給食の提供を行うため、その支援と充実を図る。
----	--

① 学校給食施設の再整備	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 名護市立学校給食施設再整備基本計画(平成21年3月策定)に基づき、老朽化した学校給食施設(5か所)の再整備を図る。今後、2か所に再編予定である。 また、新しい学校給食施設においてアレルギー対応の対象食材、除去食調理体制の検討と調理及び配送の民間委託の検討を行う。	市内にある5つの学校給食施設は全て老朽化が進んでおり、かつ、学校給食衛生管理基準を満たしていない。平成21年に「名護市学校給食施設再整備基本計画」を策定し、建設に向けて取組を進めているが、計画より遅れている。				施設の老朽化及び備品の劣化により、学校給食衛生管理基準を満たせる機能を備えきれていない。予算確保の課題があり、その課題解消のための検討を行っているため、当初の計画より遅れている。		
	目標	目標	目標	取組概要	取組概要	取組概要	取組概要	成果及び反省点
	(仮称)第一学校給食センター完成。アレルギー対応調理室の設置。	平成30年度	平成27年度	・平成30年度完成に向けた実施計画の提案 ・再整備基本計画(一部見直し)の検討 ・アレルギー対応に係る方針の決定	・建設手法の検討(アセットファイナンス活用の検討) ・再整備基本計画の一部見直しの検討(1次加工施設、食器洗浄業務、アレルギー対応室及び防災機能についての検討) ・建設予定地に含まれる国有地の購入に向けて、北部国道事務所及び沖縄総合事務局との調整 ・第2センターの建設予定地の検討 等	平成31年3月完成に向けた予算の確保及び、再整備基本計画の一部見直しの決定により、平成28年度から事業(基本設計、造成設計等)が実施可能となる。調理及び配送の委託については、調理員の人的な課題もあり、検討中。		
成果指標	新学校給食センターの建設件数	1施設	0施設					0施設
	再整備基本計画一部見直し	—	実施					実施
	アレルギー対応調理室の設置	1室	—					—
	アレルギー対応に係る方針の決定	—	策定					策定
② 学校給食における安全な食材の使用及び地産地消の推進	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 栄養士、栄養教諭を中心に学校全体で食育に取り組むとともに、農産物をはじめとした地元の食材を使った給食を提供できるよう、関係機関と連携を図る。	平成27年度 名護市産農産物利用率 21% 地域地産地消連絡協議会3回開催				積極的に名護市産農産物を取り入れているが、不足する分については、県内産、国内産など近い地域の食材を選定して納品している。		
	目標	目標	目標	取組概要	取組概要	取組概要	取組概要	成果及び反省点
	名護市産農産物の割合の増加を目指す。	平成30年度	平成27年度	市内幼小中学校の献立表の作成 食育に関する授業の実施 地産地消推進連絡会の開催 農作物、農産加工品等に関する情報交換等の実施	名護市産農産物の割合の増加を目指す。	名護市産農産物の割合の増加を目指す。	名護市産の農作物は季節や品種によって確保する量にばらつきがあるため、使用率が横ばいとなっている。	
成果指標	名護市産農産物の割合	30%	23%					21%
		目標値	目標値					
③ 名護市立学校給食費補助	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 名護市立の小学校及び中学校に在籍している児童生徒が3人以上いて過去2年度において、給食費の未納がない保護者を対象に、3人目以降の在籍児童等の学校給食費保護者負担分を補助金交付する。	3人目補助の交付 96%				過去2年間に未納がないことが給食費補助の条件であるため、補助制度の活用が徴収率の向上にもつながっている。		
	目標	目標	目標	取組概要	取組概要	取組概要	取組概要	成果及び反省点
	該当世帯の学校給食費未納をなくし、すべての対象者に補助金を交付する。	平成30年度	平成27年度	3人目以降の在籍児童等に係る学校給食費補助金交付をおこなった(473人) 過去2年間に未納がある世帯については、納付相談等を行い、計画的に支払うよう指導を行った。	該当世帯の学校給食費未納を減らし、補助金交付率の向上を目指す。	該当世帯の学校給食費未納を減らし、補助金交付率の向上を目指す。	過去2年間に未納がないことが給食費補助の条件であるため、補助制度の活用が徴収率の向上にもつながっている。	
成果指標	交付率	100%	96%					96%
		目標値	目標値					
④ 学校給食費徴収率の向上	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 学校給食費の充実を図るために徴収体制の強化をはかる。	平成27年度徴収率 94%				保護者への給食費徴収に関する周知を徹底し、徴収率は徐々に向上している。収納業務がシステム化されておらず、事務手続きに時間がかかっている。		
	目標	目標	目標	取組概要	取組概要	取組概要	取組概要	成果及び反省点
	納付相談等を実施し、学校給食費徴収率の向上を図る。	平成30年度	平成27年度	保護者への口座振込手続き 未納者への督促・勧告 未納者への納付相談及び指導 未納者への誓約書締結 未納者への戸別訪問 未納者への法的措置	納付相談等を実施し、学校給食費徴収率の向上を図る。	納付相談等を実施し、学校給食費徴収率の向上を図る。	年々徐々に徴収率を増加させているが、収納業務のシステム化がされておらず、事務手続きでかなりの時間がかかる。	
成果指標	徴収率	95%	94%					94%
		目標値	目標値					

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	C
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	県内他市に比べ給食費の徴収率が悪い。支払い能力があるにもかかわらず未納な保護者に対してはと督促勧告の強化が必要。30年度給食費徴収率を97~98%台に設定して、他市と同じくらいの徴収率まで引き上げる必要がある。食育を進めながら、保護者に向けて給食費未納の弊害について告知してはどうか
外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	給食センターの予算確保と基本設計など「検討中」の言葉が多く、進捗が把握しづらい。運営方針もこれからということなので、簡単な作業ではないがスピード感を意識した取り組みを望みます。

具体的施策名	名護市立教育研究所運営の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(5)	名護市立教育研究所運営の充実

目的	子どもたちが安全・安心に学校生活送れるよう、よりよい教育環境の整備に向けた取り組みの充実 教育関係職員の研修及び教育に関する研究機関として、本市の現状に即した調査研究事業、教職員研究事業、教育相談事業、普及事業等を効果的に推進し、本市教育の学校教育情報の蓄積と発信に寄与する。
----	---

主な取組	① 長期教育研究員研修の充実 取組の内容: 直面している課題(小中の連続性・つなぎ、小中一貫教育校)を取り上げ、関係機関との連携・協力の下、教育活動の推進。及び研究員個々の教師力の向上を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		屋我地ひるぎ学園開校に向けた教育課程編成に係る研究を前期(4月～9月末日)屋我地小学校、屋我地中学校から各1人の教諭が、領域「特別活動、総合的な学習の時間」の編成を行い、ひるぎ学園に開校に寄与した。		二見以北地域及び屋我地地域において、過疎化・児童生徒の減少により複式学級が生じた。その課題解消・教育環境の改善を図るため小中一貫教育を推進するにあたり、平成26年度より屋我地ひるぎ学園の教育課程編成に係る研究を行っている。		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	目標	平成27年度	目標	○屋我地ひるぎ学園開校に向けた教育課程編成の研究 ○研究員2人を受け入れ、教育課程編成の研究 ○研究員個々の教師力向上に向けた研修の実施(学校教育課が主催する現職教員研修に参加)	研究員個々の研修意欲と屋我地小、屋我地中との連携が功を奏し研究成果をまとめることができた。	3機関 年2人	
		研究員研修充実に向けた関係機関との連携	3機関 年2人	研究員研修充実に向けた関係機関との連携	3機関 年2人				
	成果指標	研究員研修充実に向けた関係機関との連携	研究員受入数	目標値	3機関 年2人	実施値	3機関 年2人		
	② 適応指導教室の充実 取組の内容: 個々の児童生徒に適切な体験活動や学習活動の提供と支援の充実を図るとともに、保護者、現籍校、関係機関との連携を充実させ、学校復帰、進路指導の充実を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		11人の児童生徒が入所、現籍校と連携し学校復帰に向けた取り組みを中心に、体験活動、学習指導等を実施し、5人の生徒が上級の学校へ進学できたが、現籍校への学校復帰は完全にはできなかった。		児童生徒個々が不登校に至った要因が複雑で完全な学校復帰は難しく、学校、家庭、関係機関を児童生徒個々のニーズに対応できなかった。		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	目標	平成27年度	目標	○11人の児童生徒が入所通級した ○体験活動の実施(カヌー体験、スポーツ交流会、渡嘉敷島自然体験等)の実施 ○学校復帰に向けた現籍校との連携 ○進路実現に向けた相談(中学校3年生5人中5人の生徒が高校へ進学:100%)	5人の生徒が高校へ進学できた。反省として児童生徒個々の評価のあり方	30% 100%	
		適応指導教室からの学校復帰 中学校3年生進路(就職)の実現率	30% 100%	適応指導教室からの学校復帰及び中学校3年生進路(就職)の実現	30% 100%				
	成果指標	適応指導教室からの学校復帰	中学校3年生進路(就職)の実現率	目標値	30% 100%	実施値	30% 100%		
	③ 教育相談室の充実 取組の内容: 児童生徒をはじめ、保護者及び教員の教育上の悩みについて積極的に相談に応じ、関係機関と連携をし、援助などの充実を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		来所相談、電話相談、訪問相談の件数が200件余あり、教育上の悩み等の相談に大きく寄与している。また、適応指導教室との連携で上級学校への進路の実現ができた生徒もいる。		平成4年度より教育相談員を配置。		取組概要		成果及び反省点	
平成30年度		目標	平成27年度	目標	(相談内容とその援助内容) ・不登校について:11件 主に学校、学校教育課及びあけみお学級と連携し問題の解決に当たった。内、10人は学校復帰、1人はあけみお学級への入級につながった。 ・いじめについて:3件 過去にいじめられという経験があり、またいじめられはしないかという不安の相談。 ・問題行動について:4件 制服違反があり教室に入れない。学校側と相談し、学習できる環境づくりを確保してもらうことで解決した。:4件 ・部活動学業に対する不満:6件 保護者と学校と相談することをアドバイスし、学校、生徒、保護者の困り間を払拭できた。 ・その他:208件 学習不振のなやみ、心因性の相談等	来所相談、電話相談、訪問相談の件数が200件余	100%(232件の相談)		
教育相談業務において支援に結びついた割合		100%	関係機関と連携し、保護者等の相談に対する援助の充実を図る。	100%					
成果指標	教育相談業務において支援に結びついた割合		目標値	100%	実施値	100%(232件の相談)			

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	教育相談室と適応指導教室との連携で効果的な事例があったことは評価できる。

具体的施策名	学力向上推進事業の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	1	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
				具体的施策	(1)	学力向上推進事業の充実	
目的 児童生徒に「生きる力」を育み、確かな学力を身に付けさせるため、学力向上に向けた取り組みの充実を図る。							
主な取組	① 学力向上推進委員会の充実		平成27年度現状			現状をもたらした原因	
	取組の内容: 学校・家庭・地域ぐるみで学力向上に取り組むために、基本的な生活習慣や学習規律について、幼小共通実践事項を掲げ、学校・家庭・地域が連携した取組を行う。		保幼小中の連携は進んでいるが、家庭・地域の取組の進捗が緩やかである。			保護者や地域の生活習慣づくりに向けた意識高揚には、地域ぐるみでの活動が必要である。	
	成果指標		平成30年度	平成27年度	取組概要		成果及び反省点
	地域教育懇談会への参加者		目標	目標	地域教育懇談会への参加者649人(2度による台風で3校区で不開催) 総会1回、運営委員会2回、部会12回(3部会)		台風の影響での中止もあり、目標値に届かなかった。予備日の設定が必要。
			目標値	1,300人	1,000人		実施値
					家庭支援教育フォーラム(部活動を考えるシンポジウム)開催(100人)		649人
	② 学習支援ボランティアの配置		平成27年度現状			現状をもたらした原因	
	取組の内容: 「名桜大学と北部11市町村教育委員会の連携に関する協定書」に基づき、「名護市学習支援教室びゅあ」で学習支援にあたる学生への報償費支給。		学習支援にあたる名桜大学生へ1人1回1,000円の報償費を支給。H25年度延べ710人、H26年度延べ748人、H27年度延べ688人配置。			平成25年5月「名護市学習支援教室びゅあ」が名桜大学教職講義室に開校。周知等により目標参加者数の確保ができていない。	
	成果指標		平成30年度	平成27年度	取組概要		成果及び反省点
	「びゅあ」学生ボランティア参加人数(延べ)		目標	目標	要保護及び準要保護世帯の中学生を対象に「びゅあ」への参加生徒を募集 H27年度 登録中学生数=6月時点53人、最終登録者数=111人、延べ参加人数1,346人		関係機関との連携(社会福祉課保護係、社会教育課)
大北小学習支援への報償金執行率		目標値	1,200人	1,300人		688人	
子育て支援塾への報償金執行率			100%	80%		0%	
学習支援教室への参加中学生数(延べ)			100%	80%		80%	
参加生徒の高等学校等進学者			1,600人	1,500人		1,500人	
			100%	100%		100.00%	
③ 読書活動の充実		平成27年度現状			現状をもたらした原因		
取組の内容: 児童生徒の読書活動の充実を図るため、14小学校(分校を含む)、8中学校へ在籍児童生徒数に応じ、図書購入費を配当。図書購入費の執行状況管理及び除籍図書の承認業務を実施。学校図書館司書の連携・資質向上を図る研修会の開催。		小学校図書購入費=5,149千円 中学校図書購入費=4,696千円 ・学校図書館司書研修会の開催(毎月第3火曜日の午後を基本開催日としている。)			・例年、名護市校長会からの要望事項として、図書購入費の増額が求められている。 ・各小・中学校に配置されている学校図書館司書は、1人区の職種であることから司書間の連携、資質向上を図る研修会が必要である。		
成果指標		平成30年度	平成27年度	取組概要		成果及び反省点	
小学校図書購入費の執行率		目標	目標	児童生徒の読書活動の推進に資するため、学校図書購入費については①学校割②学級割③児童生徒数割の三つを積み上げ、各学校規模に応じた予算配当を行っている。		「学校図書館図書標準の達成状況」及び現状の実態把握	
中学校図書購入費の執行率		目標値	100%	平成26年度 小学校=4,703千円、中学校=4,467千円 合計=9,170千円			99.98%
図書購入費の予算増(前年度比)			100%	平成27年度 小学校=5,149千円、中学校=4,696千円 合計=9,845千円			99.98%
学校図書館司書研修会の開催			1%	毎月1回、学校図書館司書研修会を開催し、司書間の情報共有・連携を図るとともに資質向上を図るため、毎月テーマを定めた研修会を実施。			1.07%
			12回/年	12回/年			12回/年
④ 授業力向上に向けた取組の充実		平成27年度現状			現状をもたらした原因		
取組の内容: 平成25年度から導入された学校教育特任アドバイザーについて、教育委員会主催の研究会での活用や各校の校内研究等への派遣を通して、教員の授業力向上を支援する。また、教師の授業力向上を図るため研修や授業を行い、文科省調査官等を招へいた講演会等を実施する。また、各種調査からみられる児童生徒の実態を把握し、授業改善の充実を図る。		学校特任アドバイザーによる研修会での講話や校内研修等での助言への評価は非常に高く、教職員の意欲や授業力向上に繋がっている。また、各種研修会等は、教員の意欲向上や授業力向上に繋がっている。			教職員の資質向上は教育という活動の性質上、常に継続して行う必要がある。		
成果指標		平成30年度	平成27年度	取組概要		成果及び反省点	
授業が「わかる」子どもの率(小)		目標	目標	(学校特任アドバイザーによる取組)		名護市での勤務日数等についてはアドバイザーの他業務との調整が必要。各種研修会については、効果的な実施について、県や国頭教育事務所研修との調整が必要。	
授業が「わかる」子どもの率(中)		目標値	国82.0 算82.0	・各種研修会での講話(11回・400人)			国78.6 算80.9
全国学力調査の県平均以上達成校数(小)			国75.0 数72.0	・校内研修での講話・授業参観・授業リフレクション(60回・200人)			国60.5 数62.9
全国学力調査の県平均以上達成校数(中)			全校	・文科省指定インクルーシブ教育推進事業におけるアドバイザー(18回・90人)			国4校 算4校
			全校	・各種教科等研修会の取組			国3校 数1校
⑤ 学習指導支援者の配置		平成27年度現状			現状をもたらした原因		
取組の内容: 算数・数学の授業の補助。放課後及び長期休業日等における補習指導。教材教具の作成等		12校へ12人を配置			人材確保のため給与を見直したため給与増額の分人数が減った		
成果指標		平成30年度	平成27年度	取組概要		成果及び反省点	
全国学力調査の県平均以上達成校数(小)		目標	目標	各学校の現状を考慮し、学習面において課題の大きな学校を優先し学習指導支援者12人を配置した。算数・数学の授業の補助。放課後及び長期休業日等における補習指導。教材教具の作成。		給与を見直したため年度当初から予算確保人数を配置することができたが目標人数は減となった	
全国学力調査の県平均以上達成校数(中)		目標値	算4校	100%		算4校	
「成果があった」と内容報告があった学校			数2校	100%		数1校	
			100%			100%	
⑥ 市研究指定の充実		平成27年度現状			現状をもたらした原因		
取組の内容: 特色ある学校づくりを進めることで、学力向上につなげるために市研究指定校を設置する。市内教諭がグループを組み、小中の教諭が連携して研究を進めることで、小中の連携を深め、指導力向上につなげる。		各校やグループでの研究には一定の成果があるが、研究成果の他校への還元が十分でない			研究成果の周知不足		
成果指標		平成30年度	平成27年度	取組概要		成果及び反省点	
研修の成果を積極的に教育活動に反映させる学校(小)		目標	目標	①小中一貫教育特別指定「屋我地ひるぎ学園」年間教育計画の作成		指定研究の成果の還元(グループ研究のリーフレット作成、研究成果をHP掲載)	
研修の成果を積極的に教育活動に反映させる学校(中)		目標値	50%	②学校指定4校(羽地中学校・東江中学校・名護小学校・緑風学園)			38.5%(H27年4月)
指定校・指定グループ数			40%	③グループ指定:4グループ(国語、算数・数学、書写、理科)			0%(H27年4月)
			20%	(内:国語、算数・数学は小中教諭が連携して研究を進めた)			9校(グループ)
			9校(グループ)	④講演会・発表会:計4回(参加者計260人)			

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	地域懇談会への保護者の参加を増やす努力が必要。学力沖縄県1位を目指す名護市としては、学校・家庭・地域の連携のもと必要ではないか。特に家庭教育環境が最も重要と思う。	

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	教員の「授業力向上に向けた取組の充実」は小中学校全教員を想定した取組であるが、目標値は国語と算数・数学に関するものである。設定した目標値について補足説明が必要である。	

具体的施策名	ICT(情報通信技術)を活用した教育の推進	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(2)	ICT(情報通信技術)を活用した教育の推進

目的	ICT(情報通信技術)を活用した効果的・効率的な「分かる授業」実践を行うと共に、教育の情報化を図り教師の負担軽減及び教師や児童生徒のICT活用能力を高め学力向上を図る。
----	--

主な取組	① ICT教育環境の整備	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:	<ul style="list-style-type: none"> 小学校教科書改訂に伴うデジタル教科書の購入 緑風学園及び屋我地小・中、大宮中へのICT機器の整備 小学校及び中学校における教育の情報化の推進を図るための年次的な計画が策定されていない。 				<ul style="list-style-type: none"> 21世紀を生きる子どもたちに求められる力の一つに「情報活用能力」が挙げられる。情報通信技術を効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実践のため、ICT環境整備が求められている。 計画の策定については、策定を行うに当たっての組織の検討などに時間を要している。 			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	全22校校に設置	平成27年度	4校に設置	平成27年度小学校使用教科用図書(教科書)の改訂に伴い、市内13小学校の4~6年生を対象とした主要教科①国語②算数③理科④社会⑤地図のデジタル教科書を購入・整備を目的とした学習環境の整備。		小中一貫校に配置できた	
	成果指標		21校/21校		4校/21校	緑風学園 タブレット端末21台、電子黒板2台、一部無線LANの整備 屋我地小 タブレット端末20台、電子黒板2台、一部無線LANの整備 屋我地中 タブレット端末21台、電子黒板2台、一部無線LANの整備 大宮中 書画カメラ4台、ユニット型電子黒板4台を整備		実施値	4校/21校
			21校/21校		4校/21校				4校/21校
			策定済(H28)		—				—
	実物投影、プロジェクターの設置								
	無線LAN、タブレットの整備								
	名護市教育情報化推進計画(仮)の策定								
	② ICTを活用した授業の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:	<ul style="list-style-type: none"> タブレットPC、電子黒板、デジタル教科書を利用した授業力向上を図るため年に3回のICTを利用した公開授業を実施。 				授業での活用力向上を目指して研修会を実施している。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	デジタル教科書の活用率	平成27年度	デジタル教科書の活用率	情報研修会3回 内容 ホームページの作成、タブレット、電子黒板の利用。情報モラルと3回の公開授業		デジタル教科書及びICT機器の活用に関する検証。	
	成果指標		100%		70%			実施値	79.60%
			100%		70%				71.20%
								—	
デジタル教科書の活用率(小学校)									
デジタル教科書の活用率(中学校)									
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:									
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
	平成30年度		平成27年度						
成果指標							実施値		
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:									
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
	平成30年度		平成27年度						
成果指標							実施値		

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	ICT選任の配置が望まれる。教師職員対応は無理があるのでは。ICT教育の導入は学力向上にとっても期待されるが、教員側の理解度、活用できる人材育成、維持管理等課題は多いと思うが30年度の目標達成に期待する。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	ICT教育環境の活用の現状を把握し、名護市教育情報化推進計画(仮)の策定に反映されることを期待する。

具体的施策名	国際社会に対応できる人材の育成	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(3)	国際社会に対応できる人材の育成

目的 グローバル化が進展する現代において、学校教育においても新たな英語教育の在り方が求められている。英語学習や異文化理解をとおし幅広い視野を持ち、異なる価値観を理解し互いに尊重し合える人材育成を目指す。

① 中学生海外短期留学事業	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
取組の内容: 市内全中学生を対象に募集を行い、選考試験により概ね12人を選考し、夏休み3週間程度をハワイ州ハワイ郡ヒロ及びホノルルへ派遣している。	本市の将来を担う国際感覚豊かな人材育成を図る		本市の将来を担う国際感覚豊かな人材育成を図る		36人の応募者から選考試験を実施し、夏休み8/1～8/23の約3週間名護市の姉妹都市ハワイ郡ヒロ及びホノルルへ11人を派遣した。現地では、県人会との交流会、語学研修、週末のホームステイ、学校訪問(2校)、体験活動等を実施した。また、派遣者に対しては事前研修会8回、事後研修会4回を実施。帰国後は、帰国報告会と報告書による報告を行った。		他の自治体では実施していない研修内容が多く事前研修や現地で研修が充実してきた。	
成果指標	本事業への応募者数	派遣者数	研修内容について良いと答えた生徒(率)	平成30年度 目標値	平成27年度 目標値	実施値	36人 11人 100%	
② 小・中学校英語支援員の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容: 各小中学校へ支援員を派遣し、小学校の外国語活動や中学校の英語の授業における指導補助、教材作成、各種コンテスト等への指導を行う。	ALT9人を市内小・中学校へ配置。小中一貫教育校は常勤で1人配置。中学校への配置が十分でない。		小学校に100%配置していることや小中一貫教育校へ(緑風・ひるぎ)へ常勤として配置しているため。		各種コンテストへの対応について、ALTを効果的に活用している。しかし、日頃の授業におけるALTの活用については課題がある。		9人 13校 —	
成果指標	英語支援員(ALT)の派遣者数	ALTが児童の学習意欲向上に効果があると答えた小学校数	ALTが生徒の学習意欲向上、授業づくりに効果があると答えた中学校数	平成30年度 目標値	平成27年度 目標値	実施値	16人 13校 8校	
③ 英語検定料一部補助	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容: 小中一貫教育校(緑風学園、屋我地ひるぎ学園)を除く6校の全中学生を対象に英検の一部補助(年に1度受験級の半額補助)を実施。	学校の在籍数に応じて同じ割合で予算を分配したが、学校間で活用率に開きがある。		地域から検定料に対する補助金交付のある学校については活用率が低い。また、学校間で活用に対する意識の違いや取組の差が伺える。		4～6月助成金の申請・交付 6月第1回英語検定実施、10月第2回英語検定実施、1月第3回英語検定実施 2月実績報告、補助金交付決定額の通知		昨年度に比べ活用率は向上しているものの十分ではない。今後は学校訪問の際など定期的に担当者への声かけを行う。	
成果指標	英検料補助金活用率	英検合格率(補助金活用分)		平成30年度 目標値	平成27年度 目標値	実施値	90% 60%	
④ 小・中学校英語体験学習	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容: 市内全中学生を対象に募集を行い、小中それぞれ概ね36人を決定し、さまざまな英語活動や外国人との交流を行う。英語によるコミュニケーションへの積極的な態度と英語に対する興味・関心を高める。	小学生については応募者が多かった。学校間の参加者の偏りがあったため、対象者により公平であるために募集方法の検討が必要。中学生については募集人員に対して応募者が少なかった。		募集方法が応募先着となっていたため、学校または学級担任の対応の差により保護者への周知が遅れたため。中学校は部活動の大会との重なり、中3にとっては受験との関わりから応募者数が少なかったと考えられる。		・小学生:平成28年2月20日(土)10:00～16:00 名護青少年の家に実施 ・中学生:平成28年2月27日(土)10:00～16:00 名護青少年の家に実施 英語によるさまざまな活動(ゲーム、劇鑑賞、寸劇作り等)をとおして、外国人と交流する。		小学校においては保護者等への周知が行われているが、中学校では十分ではない。	
成果指標	本事業への参加者数(小学校)	本事業への参加者数(中学校)		平成30年度 目標値	平成27年度 目標値	実施値	36人 36人	
⑤ 英検ジュニアの推進	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容: 小学校において外国語活動が実施されている5、6年生を対象に5年生ブロンズテスト、6年生シルバーテストを2月に実施している。児童の英語学習に対する興味・関心を高め、中学校英語への円滑な接続を図ると共に、客観的な評価を行うことにより指導の工夫改善に資する。	テスト結果、分析がその後の授業改善に活かされているか点検することができていない。		学校訪問、授業参観が十分でないため。		H27、4月前年度の結果分析を実施 H28、1月担当者を対象に説明会の実施 H27月1日～2月10日 テスト実施 H28、3月 各学校へ結果通知		各校担当のALTへテストの結果、分析報告をする必要があった。	
成果指標	ブロンズテスト名護市正答率	シルバーテスト名護市正答率		平成30年度 目標値	平成27年度 目標値	実施値	85% 75%	

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	小学校の英語学習はゲームや歌などを取り入れ楽しい学習だと思うが、中学生になると苦手意識を持つ生徒もでてくると思うのでALTの質や教科担任との役割分担が重要。
外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	特に中学生に向けた取組をさらにながらってほしい。

具体的施策名	キャリア教育の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(4)	キャリア教育の充実

目的	子ども達が「自己有用感」を伴った「自己肯定感」を育み、将来、社会の中で自分の役割を果たし、自ら自分らしい生き方を実現するための力を付けさせる教育活動の展開。
----	--

主な取組	① キャリア教育の充実 取組の内容： キャリア教育を総合的(学校・家庭・地域・企業・職能団・NPO等との連携)に推進するために研修会を開催する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		キャリア教育研修会(地域連携の研究会)の実施								県の補助事業「グッジョブ連携協議会」が推進していた「地域連携の研究会」を継続させるべく、学校教育課のキャリア教育研修会の中に取り込んだ。			
		目標		平成27年度	目標		取組概要				成果及び反省点		
		横軸(学校・企業・行政)、縦軸(小・中・高・大)が連携して発達段階に応じた取組の構造化を図る			横軸(学校・企業・行政)、縦軸(小・中・高・大)が連携して発達段階に応じた取組の構造化を図る		キャリア教育研修会(地域連携の研究会)参加者 幼稚園教諭、小・中キャリア教育担当、市内3高校進路担当、名桜大学准教授・学生課、沖縄県中小企業家同友会北部支部長、地域若者サポートステーションなご、企業、商工観光課、国頭教育事務所、学校教育課より計40人				当初の年間計画にはなかったが、開催した結果、参加者から「意義のある会なので継続して欲しい」という声が多数あった		
	成果指標	年2回の研修会の実施	目標値	2回	目標値	1回	実施値				1回		
	② 産学官連携によるキャリア教育の支援 取組の内容： 中学校職場体験、小学校ジョブシャドウイングの実施をグッジョブ連携協議会(産業界・商工観光課・市内企業)と連携して行った。 博物館や特定非営利活動法人NDA等と連携して地域教育資源を活用した授業を展開												
	平成27年度現状				平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	キャリア教育コーディネーターを2人配置し、市内全小学校でジョブシャドウイング、中学校で職場体験のコーディネートができた。								県補助事業「地域型就業意識向上支援事業」が終了したため「グッジョブ連携協議会」の取組を学校教育課にキャリア教育コーディネーターを設置し継続、産学官の連携を強化するため				
	目標		平成30年度	目標		取組概要				成果及び反省点			
	産学官連携のキャリア教育の充実を図る			産学官連携のキャリア教育の充実を図る		・職場体験の実施(全中学校で実施・計847人) ・ジョブシャドウイングの実施(全小学校で実施・計539人) ・10年経験者研修で地域教育資源活用のための研修実施(3回・計11人)				職場体験とジョブシャドウイングを産学官連携で行うことができた。地域教育資源を活用した授業をもっと拡大させる。			
	成果指標	小学校ジョブシャドウイングの実施校	目標値	13校	目標値	13校	実施値				13校		
	成果指標	グッジョブ連携協議会と連携した職場体験実施校	目標値	8校	目標値	8校	実施値				8校		
	③												
	平成27年度現状				平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	目標		平成30年度	目標		取組概要				成果及び反省点			
成果指標		目標値		目標値		実施値							
④													
平成27年度現状				平成27年度現状				現状をもたらした原因					
目標		平成30年度	目標		取組概要				成果及び反省点				
成果指標		目標値		目標値		実施値							

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	卒業した先輩たちの体験談を聴ける場があると良い。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	多くの企業や団体の協力のもとで、職場体験やジョブシャドウイングができています。

具体的施策名	幼児教育の充実	主管課	学校教育課 PT	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(5)	幼児教育の充実

目的	現在の社会情勢や本市の幼稚園教育の現状と課題を踏まえ、市立幼稚園における幼児教育及び子育て支援の充実を図る。
----	--

主な取組	① 幼稚園指導主事の配置	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:	学びの基礎力育成に向けて、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを作成した。それを活用した保育や教育の充実を図り、保幼小合同研修会や交流活動等に取り組んだ。				平成27年4月1日時点で、公立幼稚園への就園率が44.6%となっている。公立幼稚園以外の就学前施設から小学校へ入学する児童が増加していることから、小学校への円滑な接続及び「小1プロブレム」の解消を図るため、保幼小の積極的な連携が求められている。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		研修内容の充実		研修内容の充実		研修会の実施 ・教頭・教諭研修会(年6回) ・園長・教頭・教諭研修会(年3回) ・保幼小合同研修会(年3回) 指導助言 ・園内研修(全13園) ・10年経験者研修(対象者3人)		小学校と就学前施設間において、情報共有及び連携が図られるようになった。	
	成果指標	教頭・教諭研修会の開催	6回	6回			実施値	6回	
		園長・教頭・教諭研修会の開催	3回	3回				3回	
		保幼小連携協議会の開催	—	3回				3回	
	② 幼児教育環境の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:	「名護市立幼稚園の今後の在り方検討懇話会」の提言を踏まえ方針の策定に向けて取り組んでいる。				・名護市立幼稚園においては主に5歳児の教育・保育を行っている。 ・園児数が10人以下となっている園が6園ある(方針策定時) ・5歳児の約半数が公立幼稚園以外の就学前施設に通っている。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		方針に基づいた望ましい幼児教育環境の実現		「名護市立幼稚園の今後の在り方検討懇話会」の提言を踏まえた方針の策定		・「名護市立幼稚園の今後の在り方検討懇話会」の提言を踏まえ、方針の案を策定した。 ・方針の案について教育委員の勉強会を2回開催した。 ・平成28年3月に方針について教育委員会議決で承認された。		平成28年3月に方針を策定した。今後は、方針に基づいた望ましい幼児教育環境の実現を図りたい。	
	成果指標	方針の策定	—	策定			実施値	策定	
	公立幼稚園における複数年教育・保育の実施園	1園	0園				0園		
	適正規模(1学級20人~30人)での教育・保育の実施率	100%	—				41.7%		
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:									
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
成果指標	目標値		目標値			実施値			
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:									
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
成果指標	目標値		目標値			実施値			

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	公立幼稚園の複数年保育の実施に向けた基本的な取り組みが不十分ではないか。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	研修会や協議会の開催回数にこだわらなくてよいと考える。本市の幼児をとりまく現状を他部署と連携して認識し、広い観点をもって幼児教育や子育て支援に取り組むことが期待される。

具体的施策名	教育関係機関等との連携	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
				個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進	
				具体的施策	(6)	教育関係機関等との連携	

目的	児童生徒の科学に対する興味・関心を高め科学的な思考力の向上を図るため、教育関係機関等と連携し理科教育の充実に資する。
----	--

主な取組	① 北部地区における教育関係機関等との連携 取組の内容: ○教育関係機関と連携した自然体験学習等の実施 ○沖縄高専と連携した中学校におけるキャリア教育の実施 ○「なごサイエンスフェスタ」の実施 ○各小中学校における出前授業等の実施	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	教育関係機関と連携し、児童生徒を対象とした体験事業等の拡充と定着	平成27年度	関係機関と連携した理科教育等にかかる体験学習、出前授業等の拡充	・「夏休み自然体験学習教室」(GODAC、昆虫採集)2件の実施(67人) ・沖縄工業高等専門学校における体験授業(中学校1校・145人) ・「なごサイエンスフェスタ2016」(1月)の実施。(北部地区及び県内関係機関参画)(1,906人) ・出前授業の実施(小学校における理科学習)(3校・50人)		・関係機関の持っているノウハウが、あまり認知されていない。 ・小中学校における、理科クラブ、科学部等(受け皿)の設置が少ない。	
		成果指標	科学関係機関等と連携した取組事業の件数	目標値	8件	目標値	5件	実施値	6件
	②	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度		平成27年度					
		成果指標		目標値		目標値		実施値	
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度		平成27年度					
		成果指標		目標値		目標値		実施値	
	④	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度		平成27年度					
		成果指標		目標値		目標値		実施値	

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	沖縄高専、名桜大学との連携に工夫と活発化ができるようにしてほしい。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	

具体的施策名	心豊かな人間性を育む教育の推進	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(1)	心豊かな人間性を育む教育の推進

目的	児童生徒一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高める教育活動を推進する。
----	---

主な取組	① 情報モラル教育の充実 取組の内容： 情報化社会で情報を利用した適正な活動を行うために、もともとなる考え方や態度を養うための情報モラルに関する児童生徒・保護者向け講演会を各学校で行えるようにする。また、児童生徒の情報化社会における行動や状況を把握し、情報モラル教育に活かしていくために定期的にアンケートやヒアリングを行う。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		情報モラルに関する研修を行うことで、学校間の指導の統一性を図っている。また、情報モラルについての授業研究会を行い、指導方法について研究を行った。				児童生徒が、基本的な情報モラルについて理解し、情報端末を利用したコミュニケーションの取り方などの情報教育の必要性を認識し、適切な対応を促すため			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	研修内容の充実 市内全小・中学校1回以上 目標値 2回	平成27年度	研修内容の充実 情報担当者向け1回 目標値 0回	研修の中で、教師が情報モラルについての指導の方法や内容について深められる研修を行い、児童生徒が情報端末を利用して適切なコミュニケーションスキルを身につけることができるよう指導する方法を身につけた。	アンケートの質問事項を作成する必要がある。	実施値	1回 0回
	成果指標	情報モラルに関する研修会または講演会の実施 情報モラルに関するアンケート・ヒアリングの実施							
	② 伝統文化の尊重 取組の内容： しまくとぅばの普及促進につながる活動を推進する 中学校音楽科において三線指導に力を入れる	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		・しまくとぅばの普及促進に関する活動の周知。 ・研修会等において、挨拶などしまくとぅばの使用を奨励。 ・三線指導については、取組なし。				・沖縄県による「しまくとぅばの日に関する条例」制定や「しまくとぅば普及推進計画」の策定により、県内各地において世代を超えて受け継がれてきた「しまくとぅば」の普及推進が高まっている。 ・中学校学習指導要領の「音楽編」において、「郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること」と明記されている。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	伝統文化に触れる機会を増やしアイデンティティを高める 目標値 21校	平成27年度	取組及び整備の実施状況 目標値 21校	・しまくとぅばの普及促進に関する取組は、各小・中学校の主体的な取組に委ねられているが、教育委員会として沖縄県の取組やイベントなど、周知に努めた。 ・三線指導については、取組なし。 ・研修会等における挨拶などでのしまくとぅばの使用を行った。	・沖縄県発行『しまくとぅば読本』の活用	実施値 21校	
	成果指標	校内放送・運動会等行事におけるしまくとぅばの使用							
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度		平成27年度					
		成果指標							
	④	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
平成30年度			平成27年度						
成果指標									

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	「しまくとぅば」は地域との連携で取り組みの工夫ができないか各学校で情報モラルカリキュラムを再検討し、情報安全教育を主体的に取り組む必要がある。子ども達の発達段階に応じた道徳教育に期待する。	

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	C
上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	「伝統文化の尊重」について現在の活動や力を入れることが、目標に対して適した活動なのか検討することが望まれる。	

具体的施策名	人権教育や平和学習の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(2)	人権教育や平和学習の充実

目的	児童生徒が自他の生命を大切にし、人格を尊重し、互いに個性を認め合う豊かな人間性を育む教育活動の奨励。
----	--

主な取組	① 学校の教育活動を通じて行われる人権教育や平和学習の充実 取組の内容: 「人権の日」に合わせた人権教育の充実を奨励する。 文化課市史編係の取組や地域人材活用を図り指導が行われるよう奨励する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		各学校において月に1回人権の日を設け、校内放送や学年、学級の取り組みで人権について意識を啓発している				人権の日を設けることで、人間らしく生きることの大切さについて考え、人権意識を高めることができる。					
		目標		目標		取組概要				成果及び反省点	
		平成30年度	人権教育の充実を図る	平成27年度	人権教育の充実を図る	月に1回の人権の日の実施 ・人権の日に旗を揚げる ・人権に関する作文を校内放送で流す。 ・学校通信などを通して周知する。				人権について取り組むことができた	
	成果指標	人権教育の取組校	21校	21校	実施値					21校	
		平和教育の取組校	21校	21校						21校	
		男女混合名簿使用校	21校	5校	5校						
		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		取組の内容:				取組概要				成果及び反省点	
	成果指標		目標値		目標値		実施値				

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	男女混合名簿導入は早急に行ってほしい。すでに男女混合名簿を活用している学校の意見(メリット・デメリット)を把握する必要がある。また教員だけではなく、事務職の意見も聴いてみてはどうか。成果及び反省点はもっと具体的に表記すべきである。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	

具体的施策名	生徒指導の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(3)	生徒指導の充実

目的	不登校児童生徒を出さない積極的な生徒指導と不登校児童生徒への適切な対応
----	-------------------------------------

主な取組	① 「名護市生徒指導連絡会」及び「名護市不登校児童生徒連絡会」の充実 各関係機関・団体が連携した生徒指導を充実するため、各連絡協議会を実施し、情報連携・行動連携を図り一人一人の児童生徒理解に基づく指導体制の構築に努める。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		情報連携、行動連携が円滑に行われるよう児童生徒理解についての連絡や教師の指導力向上に係る研修を行った。				関係機関との支援会議などの開催とその後の指導への活かし方			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	成果指標	不登校児童生徒数	69人	不登校児童生徒数前年度比一割減	69人	生徒指導連絡協議会及び不登校児童生徒連絡会を開催し情報の共有や指導力向上を図ると共に関係機関との連携を密にして対応した。(生徒指導連絡協議会)計4回参加者総数96人。関係機関の紹介、事例研究、講演会、事例発表(不登校児童生徒連絡会)計3回参加者総数81人。名護市の不登校児童生徒の実態について、講演会、事例研究会	実施値	不登校児童生徒数が前年度より増加している。より緊密に連携し不登校児童生徒数の一割減を達成したい。	
		問題行動発生件数	160件	目標値	200件			95人	
		いじめ認知件数	210件	目標値	210件			219件	
		いじめ認知後解消件数	210件	目標値	210件			49件	
								未確認	
	② 生徒指導支援者を中心とした不登校児童生徒への支援 不登校及び不登校気味で特に個別の指導や相談を必要とする児童生徒に対応するため、教職員を補佐し、継続的な支援活動や様々な体験活動等を通じた個別指導を行う生徒指導支援者を派遣し、児童生徒の自己存在感を育み、自立するための支援体制を図る。	不登校及び不登校気味の児童生徒の個に応じた対応のために継続的な支援が必要				現状をもたらした原因			
		不登校及び不登校気味の児童生徒の個に応じた対応のために継続的な支援が必要				現在も情報や行動の連携を行っているが、個に応じた取り組みをより一層進める必要がある。			
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
成果指標	不登校児童生徒数	69人	不登校児童生徒数前年度比一割減	69人	生徒指導支援者を6校に6人配置し、学校職員と連携して、登校支援や学校での居場所づくり、また問題行動等への対応を行った。また、学校の取り組みや支援者としての在り方について委員会と情報交換を行った。	実施値	不登校数が前年度より増加している。より緊密に連携し不登校児童生徒数の一割減を達成したい。		
	目標値		目標値				95人		
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容:								
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
成果指標	目標値		目標値			実施値			
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容:								
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
成果指標	目標値		目標値			実施値			

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	不登校児童生徒(生徒指導)は、「点検評価」の中でも最も重要な問題だと思ふ。現状の指導が子供の将来に繋がる。連絡協議会及び連絡会において、具体的な事例を取り上げ、各機関が具体的に取り組む行動連携を図る。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	

具体的施策名	特別支援教育の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(4)	特別支援教育の充実

目的	多様な個性を持つ幼児児童生徒一人ひとりの学びの保障を目指し、支援体制の充実を図る。
----	---

① 特別支援教育の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	取組の内容:子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行っていく。その際、共生社会の形成に向けて、障がい者の権利に基づくインクルーシブ教育(包摂:一人残らずすべての子どもをすくい上げる教育)システムの理念に基づきすすめていく。特に校内支援体制の充実をサポートし、教師の特別支援における資質向上をめざす。	発達障がいやその傾向のある児童生徒の二次障がいの増加がみられる				個々の支援ニーズの把握が不十分であり、支援体制において学校間で差が生じている。				
平成30年度		目標		平成27年度	目標		取組概要	成果及び反省点		
		インクルーシブ教育の充実をめざし、全学校の支援体制を整え、全教職員の特別支援の理解と技術の向上を図る	100%		インクルーシブ教育の充実をめざし、校内体制とコーディネーターの資質向上を行う	100%			・年4回の特別支援関連研修会を実施 ・各学校の特別支援コーディネーターとの連絡会を9回(3校区×3回)実施し、全校の体制や課題及び校種間連携の状況について把握し、必要に応じて学校支援を行った ・該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談を要請に応じて行った ・文科省のインクルーシブ推進研究事業を実施し(26年、27年)、インクルーシブ教育の推進をめざした。	文科省事業において、インクルーシブ教育の推進が急速に進んだと思われる。
		目標値	研修会4回		目標値	研修4回				
研修会事後アンケートにて役に立ったとした回答率	90%	目標値	90%							
成果指標	コーディネーターの配置・指導計画作成・支援会議		特別支援教育関連研修会		実施値		100%			
							4回			
							90%			
② 特別支援教育支援者の配置及び充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
取組の内容:特別支援に該当する発達障がいやその傾向のある児童生徒の支援を行う支援者を配置し、主に安全管理、介助、学習のサポート、教職員と連携し、児童生徒の適応と自立を目指す。また、支援者の資質向上を目的とし、連絡会(6回)・研修会(6回)を行う。	人員確保が困難であり、支援者の資質に差が見られる				応募者と条件(待遇)が一致せず、採用に至らないケースが多々ある。また年度途中の採用となり、研修受講回数に差があり、結果的に支援者の資質の差につながっていると思われる					
	平成30年度	目標		平成27年度	目標		取組概要	成果及び反省点		
		各学校の要支援児童生徒の実態を把握し、適切な配置及びスキルアップを目指す。 ・研修会等実施後のアンケート結果「役に立った」90%をめざす。	100%		各学校の要支援児童生徒の実態を把握し、適切な配置を目指す。 ・ニーズに応じた理論とスキルの獲得を目指した研修と子ども理解が深まる連絡会を実施する。	100%			・19校に29名配置した。 ・年間を通して、学校と連携し、要支援児童生徒の実態を把握。さらに支援者申請書(学校より2月提出)を参考に、各学校の支援者配置数を課内会議にて決定する。ハローワークやホームページにて支援者を公募し、応募者の面接、決定、配置を行う。 ・連絡会6回を実施し、グループ協議を中心に児童生徒の支援ニーズと対応策について意見交換を重ねた。その結果、支援ニーズの理解と効果的な対応策が見いだされ、対象の児童生徒の改善につながったケースが多々あった。 ・毎回アンケートを実施し、支援者の要望に応える形で、研修会を実施することにより、児童生徒の支援ニーズに応える研修会が実施できたと思われる。その結果、児童生徒に改善がみられたと報告があった。(例:「暴力的な子どもが増加し、教室内でのケンカが多い」→研修:暴力に走る子どもの心理と対応→感想「対応策がわかり、実践した結果、児童が落ち着いた」)	・学校からの要請が多く、支援者の増員が必要と思われる。 ・支援方法の協議や研修を重ねることにより、支援者のスキルアップが見られ、対象児童生徒の改善につながった。
		目標値	連絡会6回		目標値	連絡会6回				
必要と判断した支援者配置数に対する配置率	90%	目標値	90%							
成果指標	必要と判断した支援者配置数に対する配置率		連絡会年6回		実施値		100%			
			研修会年6回				協議会6回			
			アンケートで役に立ったとした回答率				研修会6回			
							95%			
③ 名護市教育支援委員会の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
取組の内容: 各学校と連携した教育相談及び面談等の充実に努める。学校及び保護者の要請に応じ、適切な判定を出せるよう努める。	・教育支援申請(208件)に対する対応率100% ・特別支援教育コーディネーター等研修会実施(年2回)				教育支援委員のきめ細やかな対応により、申請件数に対し100%対応できた。市立幼・小・中の担当者のみならず、H27年度より保育園等の担当者へも研修を行うことができた。					
	平成30年度	目標		平成27年度	目標		取組概要	成果及び反省点		
		教育相談等の充実に図り、学校・保護者の要請に応じた、適切な判定を目指す。	100%		教育相談等の充実に図り、学校・保護者の要請に応じた、適切な判定を目指す。	100%			【名護市教育支援委員会条例 第2条(任務)】 委員会は、教育委員会の諮問に応じて、就学予定児等の障がいの種別、程度等を総合的に判断し、教育支援及びこれに係る必要な事項について調査又は審議を行い、及び答申する。 ・綿密且つ丁寧な教育相談・訪問診断等を行い、学校及び保護者の要請に応えるように努める。 ・学校、保護者及び教育支援委員会、三者の共通理解の充実に図り、より適切な判断を目指す。 ・年2回、特別支援教育コーディネーター等へ向けた研修会を行い、教育支援に対する知識・理解及び職能向上を図る。	・教育支援申請に100%対応できた。 ・通級の要請が多いため、沖縄県への通級学級新規設置について継続要請を行う。
		目標値	2回		目標値	2回				
教育支援申請に対する対応率		目標値								
成果指標	教育支援申請に対する対応率		研修会の実施回数		実施値		100%			
							2回			

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	学習障害、発達障害など多様な障害に適した支援体制と、教師・コーディネーターの更なる資質向上を願う。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	特別支援教育支援者の確保と支援者のスキルアップのために、支援者が継続して働けるような仕組みが求められる。

具体的施策名	文化財の保全及び普及活用	主管課	文化課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	1 文化の保全・活用
					具体的施策	(1) 文化財の保全及び普及活用

目的	市内には国・県・市指定の文化財が83件ある。文化財の保全をするとともに、これを公開し積極的に取り組んでおり、市民が地域の伝統や文化に触れ、学ぶ機会を提供し、地域作りに結びつくことを目的としている。また、開発行為の及び恐れのある遺跡の範囲と性格を把握するために調査を実施し、開発調整に資することを目的とする。併せて、発掘調査により出土した遺物の整理や教育普及活動への考古資料の活用にも取り組む。
----	--

主な取組	① 天然記念物「名護のひんぶんガジュマル」の保全	平成27年度現状	ひんぶんガジュマルの生育状況は良好であるが、長期的な育成環境の整備が望まれる。	現状をもたらした原因	ひんぶんガジュマルの生育環境は維持管理処置により樹勢は良好である。長期的な環境整備は意見の集約及び具体的根拠の整理に時間を要している。	
	取組の内容:天然記念物「名護のひんぶんガジュマル」の保全に向けた維持管理の実施及び生育環境の整備	目標	ひんぶんガジュマルの保全	取組概要	成果及び反省点	
	成果指標	平成30年度	目標値	年1回 年1回 年1回	取組概要	実施値
				年1回 年1回 年1回	・樹木医による樹勢診断(1回) ・文化庁調査官の意見聴取(1回) ・フレームの点検(1回) ・枝の剪定(1回)	現在、樹勢が良好なことから維持管理においては効果が表れている。
						年1回 年1回 年1回
	② 重要文化財「津嘉山酒造所施設」保存修理事業の推進	平成27年度現状	廻屋の解体工事及び保存修理が終了した。主屋の解体工事が終了。保存修理工事に取組む。	現状をもたらした原因	経年劣化や長年、風雨にさらされてきたことによる。事業の進捗については概ね良好である。	
	取組の内容:重要文化財「津嘉山酒造所施設」の保存修理	目標	津嘉山酒造所施設の保存修理	取組概要	成果及び反省点	
	成果指標	平成30年度	目標値	100%	取組概要	実施値
				73%	・津嘉山酒造所施設の主屋の工事 (仮設工事、基礎工事、木工事、屋根工事、耐震補強、雑工事)	計画どおり実施できた。
						73%
	③ 天然記念物「名護市嘉陽層の褶曲」の保全	平成27年度現状	文化財めぐりや授業、グリーンツーリズムによる利用者が訪れている。保全や利用者の安全のため、管理計画が必要である。	現状をもたらした原因	以前より、授業に利用されていたが国指定文化財になったことにより、周知され、さらに多くの方が訪れるようになった。	
	取組の内容:天然記念物「名護市嘉陽層の褶曲」の保全に向けた計画の策定	目標	「名護市嘉陽層の褶曲」管理活用計画策定	取組概要	成果及び反省点	
	成果指標	平成30年度	目標値	完成	取組概要	実施値
				—	・干潮時及び満潮時における現状の確認調査(2回) ・授業による利用者への聞き取り調査(1回)	現状の把握ができた。
					—	
④ 埋蔵文化財の保全	平成27年度現状	開発に伴う調整やキャンブシュワブの確認調査等が多忙のため、名護グシクなどの重要遺跡の調査が進んでいない。	現状をもたらした原因	緊急な開発に伴う調整や複数の発掘調査を同時に行っているため。		
取組の内容:開発行為に備えた埋蔵文化財の調査及び重要遺跡の調査	目標	埋蔵文化財の保護	取組概要	成果及び反省点		
成果指標	平成30年度	目標値	—	取組概要	実施値	
			—	・開発に伴う文化財の有無等の調整(392件) ・埋蔵文化財の確認調査(3件) (キャンブ・シュワブ、仲尾古村遺跡、名護グシク)	重要な遺跡を調査できる体制づくりが必要である。	
					—	
⑤ 豊年祭の支援	平成27年度現状	対象とした地域の豊年祭の調査・記録を実施した。	現状をもたらした原因	多くの箇所を調査をしたいが、開催期日の重複などで調査箇所が限定される。		
取組の内容:市内の一部の字で実施される豊年祭の調査及び記録する。	目標	豊年祭の継続的な記録及び調査	取組概要	成果及び反省点		
成果指標	平成30年度	目標値	年3箇所	取組概要	実施値	
			年3箇所	・宇茂佐区、済井出区、伊差川区、城区の豊年祭調査及び記録 ・これまで調査及び記録した区(47区)	現在の職員体制で3箇所調査記録できた。外部委託も視野に入れる。	
					4箇所	
⑥ 「55区すべてに指定文化財を！」を目標に、市内文化財の周知及び普及・活用の促進	平成27年度現状	名護小学校の「のぞみの像」の指定に向けて、調査や利害関係の調整を行ったが、指定までには至っていない。	現状をもたらした原因	調査に時間を要したことによる。		
取組の内容:市内55区のすべてに指定文化財を有することができるように、調査を実施し、利害関係の諸手続が整い次第、指定へと結びつける。	目標	55区すべてに指定文化財を有する。	取組概要	成果及び反省点		
成果指標	平成30年度	目標値	年1件 年1件 32区	取組概要	実施値	
			年1件 年1件 30区	・文化財指定に向けた調査 (のぞみの像、旭川区の文化財、ミズオオバコ、仲尾区の松、我部の松) ※指定文化財がある区:55区中29区(53%)	指定ができなかった。利害関係の調整に時間を要した。	
					0件 5件 29区	
⑦ 考古資料を活用した出前事業の実施	平成27年度現状	計画した事業については、実施することができたが、学校や地域からの文化財めぐり等について、さらなる普及・啓蒙が必要である。	現状をもたらした原因	学校・地域へ考古資料の活用について、日程調整があわず、開催を見合わせた事例があった。		
取組の内容:調査で出土された遺物を活用し、埋蔵文化財及び地域の歴史について普及・啓蒙を図る。	目標	考古資料を活用した地域づくり及び学習機会の提供	取組概要	成果及び反省点		
成果指標	平成30年度	目標値	年1回 年1回 年1回	取組概要	実施値	
			年1回 年1回 年1回	・安和与那川原遺跡の現場説明会の実施(約50人) ・安和与那川原遺跡の資料展示会 ・文化財講演会の実施(約50人) ・学校関係者の文化財めぐり(67人) ・ハンドブックの作成(1冊)	学校行事や授業で活用されるように学校関係者へ、より普及・啓蒙をする必要がある。	
					年3回 年1回 年3回	

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	C
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	埋蔵文化財の保全について、作業量が膨大でマンパワーの不足というなかで多くの発掘現場の調査をして頭が下がります。しかし何らかの成果指標を持ったほうが評価がしやすいです。また他の業務との関係で緊急性を要しない長期的な保全と活用の取り組みが後回しになっていることは少し残念です。

具体的施策名	博物館活動の充実	主管課	博物館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	1	文化の保全・活用
					具体的施策	(2)	博物館活動の充実

目的	「名護・山原の生活と自然」をテーマに、資料収集・保存、調査研究、教育普及活動を展開し、市民の学習・研究活動を支援し、文化活動の発展資する。
----	---

主な取組	① ぶりで子ども博物館の充実	平成27年度現状		現状をもたらした原因		
	取組の内容: 市内の小学5年生を対象とし、地域に残る自然や歴史・民俗について、地域で生業や活動している市民が講師となり、体験する講座。自然観察や稲作、塩づくり、黒糖づくりなど、やんばるの特徴ある産業を昔ながらの道具を使ってその原理、原則を学ぶ	開始して29回目を迎え、自然観察や、昔ながらの道具を使った体験学習を実施。地域の魅力に気づき、新しい発見のきっかけとなるような講座を目指している。		現代の青少年は、自然体験や生活体験が不足していると言われており、様々な体験活動を経験させることにより、生きる力を育み、人材育成につながる。		
	成果指標	地域で体験できる講座数	目標	目標	取組概要	成果及び反省点
			平成30年度	平成27年度	小学5年生を対象とし、「食」をテーマに、みそ造り・お茶碗作り・紙すき・川歩き・山歩き・豆腐作りの講座を実施した(計7回)。参加者数は23人。(男12人:女11人)	計画通り講座を実施することができた。夏休み以降は参加率が落ちた。
			目標値	目標値		実施値
			10回	7回		7回
② 企画展、特別展の開催や市民ニーズにあった講演会の実施	平成27年度現状		現状をもたらした原因			
取組の内容: 名護・やんばるの地域の特徴や課題等を調査・研究し、企画展や特別展を開催する。展示会に合わせ図録を発刊し、広く市民に公開することで、地域をより深く理解する機会を創出。また、講演会等、市民ニーズに沿って開催する。	関係各課や団体と共催しながら、効率的に企画展・特別展を実施し、展示期間中に関連する講演会等を開催した。また、サイエンスフェスタ等のイベントでブース展示を行い、博物館をアピールすることができた。		ALLやんばる学びのまちプロジェクトに参加しており、サイエンスフェスタ等の情報を得ることができた。			
成果指標	企画展・特別展・講演会回数	目標	目標	取組概要	成果及び反省点	
		平成30年度	平成27年度	・戦後70周年企画「名護・やんばるの戦争展～沖縄県立第三中学校の戦争～」(1,031人) ・写真展「発見！ワッター海の自然 大浦湾の生きものたち2015」(1,002人) ・「平良孝七写真展 女子学徒隊～ひめゆりを中心に～」(625人) ・「新収蔵品展」(444人) ・「沖縄本島縦断！トランクミュージアム!!」(186人) ・写真展「亜熱帯の森やんばる」(986人) ・「つくる、まいにちVol3 ～ハナサクトキニ～」(942人) ・「津嘉山酒造所施設展」(636人) ・戦争展関連講演会「軍国少年が見たやんばるの沖縄戦」(45人) ・稲作体験講座(6人) ・しめ縄作り講座(13人) ・黒糖作り体験講座(10人)	目標値以上を実施することができた。	
		目標値	目標値		実施値	
		10回	10回		11回	
③ 学校学習支援活動の充実	平成27年度現状		現状をもたらした原因			
取組の内容: 出前講座や博物館を使った授業など、学校の学習を支援する。	小学3年生の社会科の時間(昔の道具)ですべての小学校が博物館の見学をしている。学校で実施する出前授業(総合・理科)の需要が増えている。		教職員10年目研修等で博物館の学校教育での活用について意見交換しており、積極的に博物館を活用する学校が増えている。			
成果指標	館内見学及び出前講座の回数	目標	目標	取組概要	成果及び反省点	
		平成30年度	平成27年度	(館内見学:小学校18校(862人)・中学校2校(35人)) 学芸員が1校あたり60分館内の説明を行った。 (出前講座:小学校11校) 総合:地域の宝(東江小・107人) 幸地川探検隊(講話・観察の2回)(東江小・73人) 生物(大北小・66人) 総合:川の環境(光洋小・74人) 羽地大川(講話と観察の2回)(羽地小・65人) 昔の道具(塩屋小・9人) マンゴローブ(講話・観察の2回)(名護小・74人) せせらぎ公園自然観察(大宮小・135人)	市内小中学校からの出前講座等の要望に対して、すべて応える。	市内小中学校からの出前講座等の要望について、すべて応えることができた。
		目標値	目標値		実施値	
		40回	33回		33回	

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	取組概要で「食」のテーマ、稲作体験、しめ縄作り、黒糖作り体験講座の参加者が少なく、内容を検討する必要があるのではないかと。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	取り組みは例年通りしっかり行われていると思います。あえて付け加えますと、「ぶりでい」などは内容がいいだけに、もっと広く展開できないかと思っています。

具体的施策名	市民の市史づくり	主管課	文化課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	1	文化の保全・活用
					具体的施策	(3)	市民の市史づくり

目的	名護市の歴史を文化を調査によって明らかにし、書物として刊行する。そしてその成果を市民へ還元する。
----	--

主な取組	① 市史の刊行	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:	本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」の刊行が遅れ、平成28年度明許繰越となった。				原稿の校正作業に不測の時間を要している。			
	成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	「名護市史刊行計画」に沿って計画的に市史を刊行する	平成27年度	本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」の刊行	<ul style="list-style-type: none"> 本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」原稿編集、入札、校正。 名護市史叢書「語りつぐ戦争 第1集」(第4刷)、「語りつぐ戦争 第3集」(第3刷)増刷。 本編・1「自然と人」調査、原稿執筆。 本編・4「戦後生活史」調査。 		「名護・やんばるの沖縄戦」は、明許繰越となった。その他は、刊行に向けて調査、編さん中。	
	既刊行数(全19巻)	16巻	13巻					12巻	
	目標値							実施値	
	② 教育普及活動の推進	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:	戦跡めぐりについては参加者も多く、適切に行なっている。市史セミナーについては、27年度は開催できなかった。				市史セミナーは、本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」刊行後に、それに関連したテーマで実施する予定であったが、本の刊行が遅れたため、開催できなかった。			
	成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	平和学習や様々なテーマでセミナーを開催し、市民が地域に対する理解を深める機会を提供する。	平成27年度	平和学習や様々なテーマでセミナーを開催し、市民が地域に対する理解を深める機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> 第21回「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」FWの開催 民話紙芝居15作目「一貫日雇の出世」(山本川恒翁の語りより)の製作 源河区字誌「源河誌」刊行補助金の交付 		戦跡めぐりは、高校生と教諭で61人が参加した。市史セミナーは未開催。	
	戦跡めぐりFWへの参加者数(高校生)	50人	50人					61人	
	市史セミナーへの参加者数	100人	50人					—	
紙芝居の製作総数	20作	17作					17作		
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
目標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
平成30年度	平成27年度								
目標値	目標値		目標値				実施値		
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:									
目標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
平成30年度	平成27年度								
目標値	目標値		目標値				実施値		

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	市史セミナーの未開催があり、次回からは計画どおり開催してほしい。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	よく取り組んでいると思います。セミナーが開催できなかったなどの件は、理由が納得できるものでした。

具体的施策名	新博物館の建設	主管課	博物館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	1	文化の保全・活用
					具体的施策	(4)	新博物館の建設

目的	名護・やんばる地域の文化を育む中核施設として、また、築50年以上経過し老朽化した建物を、現在のニーズに沿った施設として、新博物館の建設を目指す。
----	--

主な取組	① 新博物館建設に向けた取組		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:新博物館の建設用地を確保するとともに、補助メニューの情報を収集・確認し、申請していく。		用地交渉が白紙に戻り、新たな候補地を選定している。				県有地である「森林資源研究センター跡地」と市有地の等価交換ができないという回答が県からあり、再度、選定作業から始めることになった。			
	成果指標	基本設計業務の完了	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		用地の確保	平成30年度	建設候補地を決定し、基本設計業務を完了する。	平成27年度	用地選定作業を進める。	用地選定作業を継続。 他市町村の情報を収集(北谷町は、一括交付金で博物館を整備)。		他市町村の情報を得ることで、活用できる事業を把握することができた。	
		目標値	完了	目標値	—					
	目標値	完了(H29)	目標値	検討						
	② 新博物館展示のための資料収集・整理・保管		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:これまで収集してきた資料を整理・確認しながら、新博物館の展示に向けた資料を収集・整理・保管し、市民に展示していきたい。		貴重な資料を含め、約3万点あまりの資料について、十分に整理できていない。				博物館を運営しながら資料の整理・保管を進めるのは、現状の人員では足りない。			
	成果指標	収集資料数	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			平成30年度	資料を収集・整理・保管するとともに、利活用を促進する。	平成27年度	貴重な民俗資料や自然史資料等を収集・整理・保管する。	旧源河小において、ナイクミ門中の厨子壺を整理しながら展示している。また、資料収集(サバニ・古我知焼き・美術資料ほか)、資料調査(程順則関係資料調査)のほか、ザトウクジラ骨格標本強化作業を実施した。		目標値に近い資料の収集はできたが、整理・保管業務が満足にできていない。	
		目標値	30,700点	目標値	30,140点					
	目標値		目標値							
③		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
成果指標		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度		平成27年度						
	目標値		目標値				実施値			
④		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
成果指標		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度		平成27年度						
	目標値		目標値				実施値			

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か		ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か		ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか		ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か		ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)		A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	早急に行動を起こして平成30年度に基本設計業務を完了してほしい。県内外からも多数の来館者が見込めるような新博物館の完成を期待する。	

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か		ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か		ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか		ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か		ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)		A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	用地選定の再作業については、仕方のない面があり、27年度は仕切り直しの年で今後期待します。	

具体的施策名	市民に開かれた利用しやすい図書館運営	主管課	中央図書館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	2 図書館サービスの充実
					具体的施策	(1) 市民に開かれた利用しやすい図書館運営

目的	「図書館は市民の本棚、暮らしの中に図書館を！」市民の要望や社会情勢に目を向け、豊富で多種多様な資料・情報の提供を行い、学校教育を援助し家庭教育の向上に向けて市内全域へのサービスの充実と読書環境の整備を図る中で、市民が利用しやすい多様な学習機会の提供と支援に努める。
----	--

① リクエスト、レファレンスサービスの充実・実施	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	リクエストは利用が多いが、レファレンスについてはまだ少ない。				リクエストは行政でも少しずつではあるが認知されてきた。レファレンスについては広報不足が考えられる。			
取組の内容: 利用者からの予約・リクエストに可能な限り応え、レファレンスサービスにも迅速に対応できるよう幅広い蔵書構成を心がける。またインターネットを活用したサービスの充実にも取り組む。	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	目標値	平成27年度	目標値	①予約・リクエストサービス件数… 3,900件(予約2,733件、リクエスト1,167件) ②レファレンスサービス件数 … 1,908件		レファレンスサービスについての図書館の取組みについて広報することが必要	
成果指標	予約・リクエストサービスの受付件数	4,100件	レファレンスサービスのPRと充実	3,000件			実施値	3,900件
	レファレンスサービスの受付件数	2,500件		2,000件				1,908件
② 学校図書館司書との連携	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	学校司書研修会の際に中央図書館職員も参加し情報交換等を行っている。また学校図書館を通して、学校に必要な資料を選定・貸出を行っている。				情報交換を行い、資料の要請方法について様式や手順を決めてお互いに確認したことで資料提供がスムーズに行えるようになったと考えられる。特別おはなし会は学校司書も参加することを含め、各学校・保育園等へも広く広報した。			
取組の内容: 市内小中学校図書館司書と中央図書館司書との連絡会をもち、学習支援や読書活動の充実に向けて協力していく。また共同で推薦図書リストを作成し、読み聞かせやレファレンスに対応できるよう図書資料を充実させる。	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	目標値	平成27年度	目標値	①学校から研究授業等で使用する図書資料の貸出要請があった際の、資料の選定と提供(33件)。※学校が希望するテーマの資料を30～100冊程度選定し、提供。 ②学校司書と合同で『教育の日・特別おはなし会』開催。123人参加。		授業に関連する資料の情報を集め、資料を必要数を揃えるなどの対応	
成果指標	学校からの資料貸出要請の件数	38件	学校と連携し、学習に必要な資料を充実させる	20件			実施値	33件
	推薦図書リスト作成件数	1件		1件				—
④ ボランティアによるおはなし会の継続	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	乳幼児と保護者向けのびよびよおはなし会は好評。土曜日のおはなし会の参加者が少ない。				びよびよおはなし会の後にボランティアや保護者同士での交流が生まれている。児童向けのおはなし会は学校でも日常的に行われているので、内容を考える必要がある。またボランティアの数も減少し、維持が厳しい。			
取組の内容: 毎週土曜日のおはなし会、月2回の赤ちゃんから幼児向けのおはなし会、春・クリスマスの特別おはなし会の開催	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	目標値	平成27年度	目標値	①毎週土曜日のおはなし会…45回 600人 ②びよびよおはなし会(月2回)… 17回 209人 ③特別おはなし会…3回 231人 ④英語のおはなし会(月1～2)…20回 116人		ボランティアの負担を軽減すること、おはなし会の持ち方・内容の工夫	
成果指標	おはなし会開催数	85回		50回	計 85回 /1,156人		実施値	85回
⑤ 市民の要望に考慮した講演会	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	子ども司書体験講座・おりがみ講座など子ども向けの企画、ハワイアン・フラ講座等の大人向けの企画の開催				アンケートや利用者からの声を参考にし、地域の人材を活用して講座を開催している。			
取組の内容: 一般・児童・郷土チームそれぞれで企画しての講演会・ワークショップ等の開催	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	目標値	平成27年度	目標値	①アメリカ情報コーナー企画(コンサート・お菓子作り・英会話・英作文講座)358人 ②抹茶体験(羽地)9人 ③おりがみ講座(本館・羽地)77人 ④知育玩具講座18人 ⑤講演『絵本「ノグチゲラの親子」ができるまで』43人 ⑥第2回名護親方講座(羽地)14人 ⑦やんばるの小さな音楽会(コンサート)71人 ⑧講演会『沖縄の健康が危ない』32人 ⑨JOYBEAT・健康測定524人 合計12講座58回・参加者総数1146人		特に中高生向けのイベントを増やせないか検討。	
成果指標	講演会・ワークショップ等開催数	15講座	市民のニーズに応え、地域の人材を活用したイベントの実施	8講座			実施値	12講座(58回)
	講演会・ワークショップ等参加者数	1,200人		950人				1,146人
⑥ 企画展等の実施	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	戦後70年に関する新聞記事や資料の展示(郷土)、沖縄タイムス出版文化賞受賞絵本『ノグチゲラの親子』写真展、アメリカ情報コーナーポスター展(4回)、給食展(給食係)を開催した。				1年間戦後70年に関する新聞記事のスクラップを郷土資料チームが続け、展示することができた。また講演会と併せての写真展や、昨年も好評だった給食展を給食係と連携して開催することができた。			
取組の内容: 絵本原画展、給食係など他の部署との共催による企画展、アメリカ情報コーナー関連のポスター展	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	目標値	平成27年度	目標値	①戦後70年をふりかえる～復興へのあゆみ(6月) ②『絵本「ノグチゲラの親子」ができるまで』写真展 ③アメリカ情報コーナーポスター展(4回) ④給食展(給食係共催)		講演会に合わせた写真展は好評。各チーム1つは企画することを目標とした。	
成果指標	展示会開催数	8回	市民の要望、市民生活に役立つ企画展示	3回			実施値	7回

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
上記評価でイとした理由又は特記すべき事項		

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	非常によく取り組まれていると思います。	

具体的施策名	次世代の芸術文化を担う人材育成の推進	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ 生涯学習社会の実現
					個別目標	3 芸術文化を借都雄するための環境づくりの推進
					具体的施策	(2) 次世代の芸術文化を担う人材育成の推進

目的	未来の芸術文化を担い、支える人づくりに取り組むため、子どもを対象として芸術文化を体験する機会を提供することにより、芸術文化の担い手である子どもやその指導者等、双方の拡充を図り、活動発表・交流の場づくりを行う。
----	--

主な取組	① 子ども芸術支援事業の充実 取組の内容: 次代を担う子どもたちが積極的に芸術文化活動へ参加できる環境づくりに努め、時代のニーズに沿った指導等を行い、子どもたちが感受性及び創造性を発揮できるよう指導者等と連携を図りながら、協同でその環境整備を図っていく。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		各団の団員確保及び指導者確保に苦慮している。								
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
	成果指標	3団体の定期公演の鑑賞者数		平成30年度	子どもが持つ優れた感性と個性を伸ばし、文化活動の充実及び児童生徒の健全育成を図る。	平成27年度	子どもが持つ優れた感性と個性を伸ばし、子ども主体の芸術文化活動の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 名護ジュニアオーケストラ定期練習(40回) 名護市児童合唱団定期練習(49回) 名護市児童劇団中間発表会&OB公演 創作劇 いちご大福「こどもの会議」「三人の姉妹」(230人) 子ども芸術支援事業3団体合同公演 with宇井孝司(アニメ監督)&中川賢一(ピアノ)名護の未来のコンサート(600人) 第18回名護市児童劇団定期公演「ひとつじゃないから星空なんだ」(200人) 地域活動として、ピーチクリーン活動や福祉施設等でのアウトリーチ公演等(3回) 	3団体共に、普段の練習の成果もあり定期公演は無事成功裏に終えたが、今後の団員増をどのように取り組むかが課題である。	
		目標値	600人		目標値		600人		実施値	1,030人
	② 市内の学校等と連携したアウトリーチ事業の展開 取組の内容: プロのアーティストを招聘し、地域の小中学校に派遣、ワークショップやミニコンサートを実施することにより、芸術文化をより身近に触れ、鑑賞することで芸術への関心度を高めることに繋がる。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		本アウトリーチ事業を実施することにより、子どもが持つ優れた感性と個性を伸ばし、豊かな情操を育む、感性豊かな子どもの育成に繋がっているか。								
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
	成果指標	開催回数		平成30年度	プロの演奏家によるコンサートを身近で体験することにより、子どもの想像力と感性を刺激する。	平成27年度	普通の音楽の授業とは違う雰囲気の中で、生の芸術鑑賞を体験できる。	<ul style="list-style-type: none"> 大宮小学校にて、8回実施「ディッシーフルートアンサンブル」(421人) 稲田小学校にて、3回実施[デュエット(ピアノデュオ)](106人) 名護小学校にて、6回実施[ヴォイスアンサンブルおから「座」 田里直樹(テノール)&具志志郎(バリトン)&前川佳央(バス)&船越しのぶ(ピアノ) (758人) 東江中学校にて、6回実施[大森智子(ソプラノ)&デュエット(ピアノデュオ) (408人) 羽地中学校にて、5回実施[ディッシーフルートアンサンブル](290人) 	今後も市内の各学校側と連携を図り、多種、多様なメニューのアウトリーチ事業を実施していきたい。	
		目標値	30回		目標値		25回		実施値	28回
	成果指標	観覧者数		目標値	2,000人	目標値	1,500人	実施値	1,983人	
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	取組の内容:									
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
成果指標			平成30年度	目標値	平成27年度	目標値		実施値		
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	取組の内容:									
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
成果指標			平成30年度	目標値	平成27年度	目標値		実施値		

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	取組概要でアウトリーチ事業が一部の学校しか実施されていないので多くの学校で実施してほしい。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	C
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	この事業も実施値1,030人に対して目標値が600人となっているので、その説明が必要である。口頭で説明は受けたが記録として残しておく必要がある。さらに、次世代の芸術文化を担う子供達の人材育成ならば、もっと推進し事業数を拡大する必要がある。

具体的施策名	中央公民館の充実	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	4	公民館活動の充実
					具体的施策	(1)	中央公民館の充実

目的	市民ニーズに応じた各種事業に取組み、生涯学習機会の提供や市民が誰でも気軽に集える生涯学習の拠点となるよう、施設の管理・運営の向上に努める。
----	---

主な取組	① サークル団体の支援及び発表機会の提供 取組の内容: 毎年サークル団体登録を行ってもらい、登録団体へは施設使用料の減免等を行っている。毎年10月から3月まで、1サークルにつき2週間の展示発表を中央公民館で行っている。	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		目標		目標		取組概要				成果及び反省点			
		成果指標	中央公民館サークル団体数	平成30年度	稼働率の低い部屋の利用の促進を行い目標値に近づける	平成27年度	サークル団体の増	サークル登録団体数: 49 展示発表: 10/13から3/27まで開催 11のサークルが発表を行った。 舞台発表: 3/12~13福祉祭りと合同で開催 2日間で10組のサークルが発表を行った。 11/20沖縄県公民館研究大会において2組がアトラクションとして発表を行った。 毎年サークル団体登録を行ってもらい、登録団体へは施設使用料の減免等を行っている。				サークル間で出来るだけ曜日と時間が被らないように調整している。調理室の稼働率が低いので、その分サークル増が可能である。	
			サークル活動発表会		目標値		55団体					目標値	52団体
				目標値	1回	目標値	1回	実施値	2回				
		② 社会的な課題をテーマにした講座の実施 取組の内容: 社会の変化や要望に応じた講座を実施し、市民活動の向上を目指している。		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
				目標		目標		取組概要				成果及び反省点	
		成果指標	講座実施数	平成30年度	提案型や地域課題解決型の講座等を計画的に行っており、定員に対する参加率も高い。	平成27年度	市民生活向上につながる講座の開催	(公民館提案型講座: 9回) 発酵体験講座: 57人・子ども絵画教室: 41人・エコプラアクセサリー講座: 20人 子ども書道教室: 16人・親子でアロマ講座: 9人・琉球かれん: 4人・読み聞かせボランティア研修会交流会: 33人・サルサダンス教室: 32人・はじめてのノルディック教室: 17人 (地域課題解決型講座: 3回) キッズダンス教室: 23人・しまくとぅば(ていーあしびー)講座: 13人・しまくとぅば(しまくとぅばde民話)講座: 15人 (学童思春期講座11回) 大切な心とからだ: 94人・すべてにありがとう: 341人・笑顔あふれる親子の関わり: 593人・火星の取り扱い説明書: 80人・寝る子はでいきやーないんどー: 129人 ・子どもの可能性を育む子育て支援: 37人・言葉の力~落語を通して~: 199人 ・絵本の世界から家庭教育を考える: 18人・わくわくサイエンス教室: 54人・子どもの笑顔を引き出す親のかかわり: 75人・小さな頑張り大きな未来~子どもを伸ばす大人の関わり: 96人 (乳幼児期講座)親子でリトミック: 17人				市民アンケートや学校アンケートを基に講座を企画し、地域コーディネーターの協力で周知もうまくいったと考えられる。	
			講座受講定員率		目標値		25講座					目標値	25講座
				目標値	100%	目標値	100%	実施値	97.36%				
③		平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		目標		目標		取組概要				成果及び反省点			
成果指標		平成30年度	目標値	平成27年度	目標値					実施値			
			目標値		目標値					実施値			

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	たとえば「しまくとぅば13人」に対し、「すべてにありがとう341人」など、取組み内容によって集客の差が激しいので、どうして少なかったのか、また逆に、どうして多く集まったのかを分析し、次年度以降の取組みに反映させる必要がある。

具体的施策名	地域公民館の充実	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	4	公民館活動の充実
					具体的施策	(2)	地域公民館の充実

目的	市民が気軽集える生涯学習の拠点となるよう、地域公民館の活動を支援する。
----	-------------------------------------

主な取組	① 「名護市公民館連絡協議会」との連携の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 各区の公民館長や書記を対象にした研修会を年に1回実施し、連携の充実を図る。	H27年9月3日、屋我公民館にて各公民館維持管理費についての研修会を行った。				平成26年4月1日に各区コミュニティ施設と名護市で交わした協定書の内容が周知不足であった事と、各区長の交代もあり、内容確認のために研修会を行った。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	公民館職員研修会	平成30年度	研修会の実施	平成27年度	研修会の実施	・公民館の管理運営に係る研修会の実施 (各自治公民館等における修繕や維持管理について、協定書の内容等の確認や、名護市としての対応の考え方、また新しい制度(大規模修繕助成)作成の概要について研修会を行った・参加者数10人)	いくつかの区から要望のあった大規模修繕助成について理解を得られた。	1回	
	成果指標	目標値	1回	目標値	1回			実施値	1回
	② 各区及び他機関と連携した講座の実施	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 地域の公民館等を活用し、地域移動講座を実施します。	各支所に配置されている社会教育主事と連携し、地域の要望課題を取り入れた講座を実施した。				H27年度は羽地と久志の2支所から課題解決型の講座開催要望があったため。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	地域移動講座	平成30年度	地域の要望及び課題解決型講座の開催	平成27年度	地域の要望及び課題解決型講座の開催	羽地支所にて「しまくとぅば講座」を2回開催(28人)。 久志支所においては、「キッズダンス教室」を開催した(23人)。	各支所以外の地域の公民館を活用した講座を開催していく。	3回	
	成果指標	目標値	7回	目標値	5回			実施値	3回
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
地域移動講座	平成30年度		平成27年度						
成果指標	目標値		目標値			実施値			
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:									
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
	平成30年度		平成27年度						
成果指標	目標値		目標値			実施値			

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	地域活性化のためには公民館の充実が必要であるが、現状では研修会も1回で参加者も少ないため、目的達成はできないのではないかと。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	D
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	市内55字の公民館を支援するには、年1回程度の研修では絶対的に研修の回数が足りない。もっと、充実を図り地域の拠点となるよう啓蒙活動が必要である。さらに、取り組み事業も少ないので、事業数を増やし充実を図る必要がある。

具体的施策名	スポーツ活動事業の推進	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	5	スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(1)	スポーツ活動事業の推進

目的	市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。
----	----------------------------

主な取組	① 各種スポーツ教室の開催(テニス、水泳、ウォーキング等) 取組の内容:各種スポーツ教室の開催	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		各種スポーツ教室や地域イベントでのスポーツ体験教室、体力測定、ツール・ドー輪車大会、チュックボール大会を開催している、高齢者の方々が参加できる環境がまだ不足している。		気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組んでいるが、スポーツに馴染みのない市民も多いことから、地域に出向いての活動を増やす必要がある。		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	子どもから高齢者まで市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。 目標値 1,500人	平成27年度	子どもから高齢者まで市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。 目標値 1,200人	・シーカヤック教室(40人) ・少年少女水泳教室(38人) ・地域スポーツ教室(100人) ・地域イベントでのスポーツ体験教室(254人) ・体力測定(102人) ・ツール・ドー輪車大会(225人) ・チュックボール大会(70人) ※例年開催している小学校交流駅伝競走大会は悪天候により中止。(参加予定者:390人)	地域に出向いてニュースポーツの体験教室の充実を図り、高齢者の健康活動の促進に努めていきたい。	実施値	829人
	成果指標	スポーツ教室等への参加者数							
	② 学校プールの一般開放事業 取組の内容:学校プールの一般開放事業	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	夏季休業期間中に、学校プール施設(羽地中、久辺中、緑風学園)を活用し実施。		小中学校の夏季休業開始前に利用案内を行っていることもあり、利用者が多い。継続して実施したい。		取組概要		成果及び反省点		
	平成30年度	学校プール施設(羽地中、緑風学園)を活用し、市民の体力向上と水泳の振興に努める。 目標値 1,900人	平成27年度	学校プール施設(羽地中、緑風学園、久辺中)を活用し、市民の体力向上と水泳の振興に努める。 目標値 1,200人	下記学校プールを活用し一般開放(20日間)を行った。 羽地中:701人 緑風学園:207人 久辺中:250人 合計1,158人	今年度で久辺中学校プールが解体となることから、今後は限られた施設での利用促進に努めていきたい。	実施値	1,158人	
	成果指標	学校プールの一般開放事業利用者数(20日間)							
	③ スポーツ推進委員の組織強化及び活動支援 取組の内容:スポーツ推進委員の組織強化及び活動支援	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	全国、九州、沖縄県、北部地区の研修会への参加及び自主研修を実施。新規委員の確保に向けた取組。		積極的に研修会へ参加し自己研鑽を重ねているが、新規の委員確保が厳しい状況となっている。		取組概要		成果及び反省点		
	平成30年度	スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図り、必要な人員を確保する。 目標値 16回	平成27年度	スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図り、必要な人員を確保する。 目標値 16回	・北部地区スポーツ推進委員研修会(6月開催:参加11人、3月開催:参加17人) ・沖縄県スポーツ推進委員研究大会及び研修会(8月開催:参加者10人、12月開催:参加者19人) ・全国スポーツ推進委員研究大会(11月開催:参加者1名) ・九州地区スポーツ推進委員研究大会(2月開催:1名) ・自主研修会:月例会を毎月第3木曜日に開催しており、毎回12、3人の名護市スポーツ推進委員が参加 ・教育委員会主催のスポーツイベントにおいて運営役員として活動 ツール・ドおきなわ輪車大会大会16人・沖縄県チュックボール大会12人 ※共催行事として、名護市ワラビニック3人、NAGOハーフマラソン11人が運営役員として活動	研修会等への参加者が8割程度となっているが、今後、世代交代となる時期がくるため新規委員の確保が必要となってくる。	実施値	16回	
	成果指標	研修会・実技研修会開催数							

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	取組概要で大会参加、研修会が主である。市民スポーツイベント開催等もっと行動力を発揮してほしい。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	D
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	「スポーツに馴染みのない市民が多いから」という表現があるが、そもそも本事業の目的がそれであり、いかに市民にスポーツを馴染ませるのか、を考えて計画し実施しなければならない。「地域公民館の充実」を合わせて、各公民館と共同事業を展開したり、小学校を回るなど工夫が必要である。

具体的施策名	青少年のスポーツ活動の推進	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	5	スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(2)	青少年のスポーツ活動の推進

目的	子どもたちにスポーツの楽しさや達成感などを実感できる環境を整備することで、スポーツ活動の推進を図る。
----	--

主な取組	① ジュニアを中心としたトップアスリートの育成・強化及びスポーツ少年団の組織化及び指導者育成の推進 取組の内容: スポーツ少年団等の指導者育成を図るため講習会を開催する	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		子どもたちのスポーツ活動に関する課題(練習時間の過多、食事面など)が出ている。				子どもたちのスポーツ活動に関わる指導者の育成・確保に取り組む必要がある。				
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
	成果指標	指導者講習会開催件数	2回	平成27年度	指導者講習会受講者数	100人	名護市体育協会と連携し、2回(8月、2月)のスポーツ団体等の指導者講習会を開催(受講者数38人)。	指導者だけでなく、保護者への参加周知を図っていききたい。	実施値	2回
		指導者講習会受講者数	100人		実施値	38人				
		スポーツ少年団数	25団体		実施値	18団体				
	② プロ選手やトップアスリートによるスポーツ教室の開催 取組の内容: 県内で活躍するプロ選手によるスポーツ教室を開催する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		ハンドボール、バスケットなど県内のプロ選手によるスポーツ教室を開催。				県内においてハンドボールやバスケットなどのプロリーグの立上げにより、一流選手のプレーを身近に観ることができる環境が増えたことやスポーツ教室等の開催も増えてきている。				
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
	成果指標	スポーツ教室の開催件数	3回	平成27年度	スポーツ教室参加者数	50人	沖縄タイムス主催により、琉球コラソンの協力を得て中学生ハンドボールスクールを開催(参加者数24人)。	備品等が整備が必要となっている。	実施値	1回
		スポーツ教室参加者数	50人		実施値	24人				
					実施値					
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
成果指標	目標値		平成27年度	目標値				実施値		
	目標値			実施値						
	目標値			実施値						
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
成果指標	目標値		平成27年度	目標値				実施値		
	目標値			実施値						
	目標値			実施値						

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	スポーツ指導者の講習会を受講する機会をもっと増やす必要がある。(指導者の切り替えが以前よりも早い)指導者の育成が急務と思う。日本体育協会、県体育協会等での指導者認定者を増やし充実した効果的指導ができる体制が必要。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	D
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	6年生の保護者が監督し、毎年、監督・コーチが入れ替わる現状に対応できていない。そのため、指導者の育成には繋がっておらず、間違った指導をする指導者をどうするか、今後の対応を検討しなければならない。さらに、もっと子供達に夢を与えるプロ選手との交流を増やすべきである。

具体的施策名	競技スポーツの推進	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	5	スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(3)	競技スポーツの推進

目的	名護市体育協会や名桜大学等と連携し、競技者の育成及び競技力向上を図る。
----	-------------------------------------

主な取組	① スポーツ関係団体支援事業 取組の内容: 各種競技大会における共催・後援等の支援、名護市体育協会への助成を活用した3支部体育協会への支援を行う。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		名護市体育協会を中心として、各種スポーツ団体の活動を支援。				競技スポーツの推進を図ることを目的としている名護市体育協会と連携し、支援することで各種スポーツ団体の競技力の向上に繋げている。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	成果指標	名護市体育協会専門部の団体数	平成30年度	スポーツ活動を支援し、団体数の増を目指す。 目標値 20団体	平成27年度	スポーツ活動を支援し、団体数の増を目指す。 目標値 20団体	各種競技大会への共催・後援、競技役員への支援。名護市体育協会への助成金を活用した3支部体育協会(北体協、南体協、久志体協)の活動支援。	県内・県外との競技力の差があるため、継続した取組が必要。 実施値 18団体	
			目標値		目標値				
	② 県レベルの大会やスポーツイベントの開催 取組の内容: 沖縄県民体育大会の開催(H27年度北部開催)やNAGOハーフマラソン、沖縄本島唯一のウルトラマラソン、ツール・ドおきなわ輪車大会の開催支援。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		各種スポーツイベントの開催支援。				名護市体育協会やツール・ドおきなわ協会と連携し、スポーツイベントを開催している。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	成果指標	大会・スポーツイベント開催件数 県民体育大会参加者数	平成30年度	大会等の充実を図り参加者の増加を目指す。 目標値 5件 380人	平成27年度	大会等の充実を図り参加者の増加を目指す。 目標値 4件 370人	沖縄県民体育大会(北部開催)、NAGOハーフマラソン、なごうらマラソン、ツール・ドおきなわ輪車大会の開催支援	年々、参加者が増えており、競技者のみならず、随行者も楽しめるイベントとして充実を図る必要がある。 実施値 4件 380人	
			目標値		目標値				
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		取組の内容:							
目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
成果指標		平成30年度	目標値	平成27年度	目標値		実施値		
		目標値		目標値					
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容:								
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
成果指標		平成30年度	目標値	平成27年度	目標値		実施値		
		目標値		目標値					

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	競技スポーツを目指す、特化した少年スポーツ団体組織の結成も必要である。スポーツコンベンション推進を行い、これまでの大会だけではなく、県・九州・全国・世界的なイベント誘致行動が必要である。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	D
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	実施値が4件・380人に対し、H30年度目標値が5件・380人というのが、よく分からない数値である。県内外の競技力の差があるのであれば、その差を埋めるための工夫を考えなければ意味が無い。また2020年の東京五輪と過去の東京五輪の関連性をもった事業も期待する。

具体的施策名	社会体育施設の整備	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	5	スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(4)	社会体育施設の整備

目的	施設の維持管理及び利用者が快適に活動できる施設の整備拡充を図る。
----	----------------------------------

主な取組	① 真喜屋運動広場の再整備事業 取組の内容: 多目的広場として、様々なスポーツが快適かつ安全に行えるよう拡張整備を実施する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
	成果指標	真喜屋運動広場の拡張整備	平成30年度	整備事業の完了済(平成28年度)	平成27年度	拡張用地の取得及び本体整備工事に係る実施設計の完了	①平成24年度完了:基本設計 ②平成25年度完了:県資材ヤード移転先造成設計 ③平成26年度完了:県資材ヤード移転先造成工事(繰越事業)、拡張部分(国有地)用地測量 ④平成27年度完了:実施設計(繰越事業)、拡張部分(真喜屋区有地)用地分筆測量、海岸保全区域の一時解除手続 ⑤平成28年度予定:拡張部分用地取得(国有地及び真喜屋区有地)、海岸保全区域再設定手続、保安林解除手続、本体整備工事	法的手続に関し、関係機関との事前調整を密にし、円滑な事業進捗に努める必要がある。	実施値	一部完了
			目標値	完了(H28)	目標値	一部完了				一部完了
	②		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	成果指標		平成30年度	目標	平成27年度	目標	取組概要	成果及び反省点	実施値	
			目標値		目標値					
	③		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	成果指標		平成30年度	目標	平成27年度	目標	取組概要	成果及び反省点	実施値	
			目標値		目標値					
	④		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	成果指標	取組の内容:	平成30年度	目標	平成27年度	目標	取組概要	成果及び反省点	実施値	
			目標値		目標値					

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	事業の評価ではAと思うが、社会体育施設の増が必要ではないか。将来的には総合グラウンド(陸上競技場)を含むスポーツ総合施設の建設を望む。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	D
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	名護市ある施設は真喜屋運動広場のみが社会体育施設ではないので、他の体育施設の保守・点検・改修工事や、さらには新名護市陸上競技場の建設問題など、どうなっているのか、資料からは全く分からない記述となっている。

具体的施策名	青少年の健全育成事業の充実	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ 学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり
					個別目標	1 地域・家庭の教育力の再生
					具体的施策	(1) 青少年の健全育成事業の充実

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えていきます。
----	--

主な取組	① 「名護市青少年育成協議会」活動の充実	平成27年度現状 各支部を対象に青少年健全育成提案型助成事業を実施した。	現状をもたらした原因 各支部組織の充実・強化を図ることで、地域社会の健全な発展と青少年の健全育成に繋がるため実施した。					
	取組の内容:第35回名護市青少年の主張大会の実施、善行青少年、育成功労者表彰の実施し、青少年健全育成体制の充実を図っている。	目標 青少年が心身ともに健全な社会人として成長するよう、家庭、学校、地域社会、関係団体が連携し、青少年の健全な育成を図る。	目標 青少年が心身ともに健全な社会人として成長するよう、家庭、学校、地域社会、関係団体が連携し、青少年の健全な育成を図る。					
	平成30年度	平成27年度	取組概要 ・第35回名護市青少年の主張大会(117人)・国頭地区青少年の主張大会(132人) ・青少年協役員・関係団体等研修会(22人) ・善行青少年及び育成功労者表彰(4人) ・青少年健全育成提案型助成事業 屋部支部:手作りレポート及び祭り用のぼり旗の創作活動 屋我地支部:ハルサーエイカーに学ぶ“食育”と“ものづくり” 久志支部:地域密着型子ども映像制作 羽地支部:青少年国際交流事業～世界を感じる羽地っ子～ ・社会環境実態調査					
	成果指標	青少年健全育成事業への参加者数	目標値	1,000人	目標値	1,000人	成果及び反省点 提案型助成事業を活用し、各支部も活発に活動している様子が伺える。近年インターネット、スマートフォンによるネットいじめや依存症が問題になっている。青少協でも研修会等の取り組みが必要。	
	実施値						474人	
	② 「深夜はいかい防止等名護市民大会」の開催及び夜間街頭指導の実施	平成27年度現状 毎年青少年の深夜はいかい防止市民大会を開催しているが、参加者が少ない状況にあり課題がある。※平成27年度は台風のため大会中止 夏祭り夜間街頭指導活動は、台風接近のため中止となった。さくら祭り夜間街頭指導活動を実施した。少年を守る日の夜間街頭指導活動は、5中校外指導部や少年補導員、青少年育成協議会と連携し実施。	現状をもたらした原因 ・深夜はいかい防止市民大会は、開催日が平日の夕方ということもあり、一般の参加者が少ないのではないかと考えられる。また、青少年の問題行動が大きく取り上げられたときには、参加者が増えてくる傾向にあると感じる。 ・夜間街頭指導活動では、どのように声掛けしていいかわからないという声もあり、街頭指導ボランティアが声掛けしやすいよう、声掛け例を記したチラシを配布するなどし活動を継続していく。					
	取組の内容:「平成27年度深夜はいかい防止・未成年者飲酒防止・夏の交通安全運動名護市民大会」の実施。夜間街頭指導活動の実施(少年を守る日・夏まつり・さくら祭り)	目標 全市民が夜型社会を是正を図り、青少年の夜遊びや深夜はいかい防止を目指す。夜間街頭指導活動を実施し、青少年への帰宅指導に取り組む。	目標 全市民が夜型社会を是正を図り、青少年の夜遊びや深夜はいかい防止を目指す。夜間街頭指導活動を実施し、青少年への帰宅指導に取り組む。	取組概要 ・「青少年の深夜はいかい防止・未成年者飲酒防止・夏の交通安全運動」名護市民大会を開催に向けて、関係機関と調整を行いながら準備をしてきたが、台風接近により中止となった。 ・さくら祭り夜間街頭指導活動(207人) ・県民一斉行動夜間街頭指導活動・夏祭り夜間街頭指導活動(台風のため中止)				
	平成30年度	平成27年度	成果及び反省点 市内の青少年育成団体や関係機関、保護者、児童生徒への参加周知を図ってきたい。					
	成果指標	「深夜はいかい防止等名護市民大会」参加者数 夜間街頭指導活動への参加者数 未成年者の深夜はいかい補導数(年間)名護署管内 未成年者飲酒補導数(年間)名護署管内 夏まつりにおける夜間街頭指導ボランティア数 さくら祭りにおける夜間街頭指導ボランティア数	目標値	500人 700人 0人 0人 230人 230人	目標値	300人 700人 0人 0人 230人 230人	実施値	0人 約507人 788人 117人 0人 207人
	③ 成人式の開催	平成27年度現状 成人式典については、何事もなく終わることができたが、式典後のロータリーへの暴走バイクやオープンカーによる道路の封鎖など、成人として目に余る行為が毎年続いている。また、小中高生の期待族も集まる状況もあり、厳しい状況がある。	現状をもたらした原因 式典後のロータリーへの暴走バイクやオープンカーによる道路の封鎖など、成人式典に来た保護者が写真撮影をするなど喜んでる状況も見られる。また、暴走は、新成人の後輩が原付バイクで追走するなど新成人を取り巻く親や先輩後輩の人的環境が課題。					
取組の内容:平成28年名護市成人式を実施	目標 新成人が成人に達したことを社会的に認知し、新たな門出を祝福する。	目標 新成人が成人に達したことを社会的に認知し、新たな門出を祝福する。	取組概要 新成人企画スタッフを募集し、成人式展・その他について、企画スタッフ会議を数回実施し成人式を開催。暴走行為に関する対応は、地域協働係が行っている。					
平成30年度	平成27年度	成果及び反省点 新成人スタッフの協力もあり、式典は終わることができた。だが、式典後については新成人を取り巻く親や先輩後輩の人的環境が課題。						
成果指標	成人式典の新成人参加者数 問題行動発生件数	目標値	800人 0件	目標値	800人 0件	実施値	約700人 1件	
④ 自然体験活動を通じた児童生徒の健全育成事業の充実	平成27年度現状 ふるさと・未来・絆リーダー研修の実施 名護市子連リーダー・ジュニアリーダー・育成者合同研修会	現状をもたらした原因 ふるさと・未来・絆リーダー研修が雨天のため日程の変更が続く中、高校生のリーダーシップや名桜大学生ボランティアのサポートにより、団員が声を掛け合い協力しながらPA体験や自然体験、野外炊飯などの活動を行った。また、市子連の研修では、心肺蘇生法やリーフ体験、ウミガメの卵の観察など大自然に触れ、感性を磨く機会となった。						
取組の内容:ふるさと・未来・絆リーダー研修の実施 名護市子連リーダー・ジュニアリーダー・育成者合同研修会	目標 自然に触れ、生きる力を養い、異年齢集団で活動し、協調性・規範意識を学ぶ機会とする。	目標 自然に触れ、生きる力を養い、異年齢集団で活動し、協調性・規範意識を学ぶ機会とする。	取組概要 名護市青少年育成協議会「ふるさと・未来・絆リーダー研修」(110人) ・班長・副班長研修(PA体験) ・全体事前研修(カヌー体験) ・本研修(PA体験、カヌー体験、褶曲見学、キャンプ、野外炊飯、レクリエーション、川遊び) 名護市子ども会育成連絡協議会「リーダー・ジュニアリーダー・育成者合同研修会」 ・心肺蘇生法講習、ウミガメの卵観察、リーフ体験(54人)					
平成30年度	平成27年度	成果及び反省点 名桜大学生ボランティアの協力も得て、とても充実した体験活動となった。						
成果指標	自然体験活動の実施回数	目標値	2回	目標値	2回	実施値	4回	

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	全ての取組において、取り巻く大人や親の人的環境の課題に取組む必要がある。成人式については多くの問題点があるので式の開催の仕方を検討する必要がある。成人式での暴走行為や問題行動にはもっと警察に協力依頼はできないものか。
外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	D
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	成人式の在り方を根本から見直す時期に来ている。中学校ごとの開催や、支所ごとの開催など地域との連携を図るような開催にすべきである。現状の市民会館一括開催は意味が無いので即改めるべきである。できれば、その費用約40万円をアウトリーチ事業などに回すべきである。

具体的施策名	家庭教育の支援	主管課	社会教育課 総務課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ 学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり	
					個別目標	1 地域・家庭の教育力の再生	
					具体的施策	(2) 家庭教育の支援	

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えていきます。
----	--

主な取組	① 「家庭教育支援事業」の推進		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 家庭教育支援チームを組織し、保護者や子育て支援関係者への研修会・講演会等の学習機会の企画・実施や家庭教育支援アドバイザーの養成、成長発達段階の子どもの関わり方を学ぶ「親のまなび愛プログラム」に取り組む。		平成27年度は、家庭教育支援チームや子どもの家の支援者を中心に、親のまなびあいプログラムや研修会に取り組んできました。また、学校の授業参観やスポーツ団体の大会に合わせ保護者や指導者を対象に「親まなびあいプログラム」講座を実施し、実施校校長や参加者から好評を得ている。平成28年度からは家庭教育支援チームが中心となり、家庭教育についてのニーズを把握し、関係団体や幼小中学校で保護者への学びの場が提供できるよう取り組みたい。				家庭教育は、子どもの生活習慣の確立や規範意識の向上など重要な役割を担っている。しかし、家庭を取り巻く教育環境は大きく変化し、家庭教育が困難な社会になっている。保護者への学びの場や情報交換の場を提供し家庭教育力の向上に取り組む必要がある。			
	成果指標	研修会等への参加者数	平成30年度	目標	300人	平成27年度	目標	300人	取組概要 ・行政・関係団体との顔合わせ意見交換会、沖縄県家～なれ～運動事業説明(1回・28人) ・名護市学校家庭地域連携事業・名護市家庭教育支援事業合同連絡会(ADHD・LDを持つ子ども達への支援について)(皆で学ぼう！困り感を持つ子どもへの接し方)(2回・107人) ・研修会(普通救命講習研修会)(1回・13人) ・親のまなびあいプログラムの実施(大宮中学校、新報北部バレーボール大会、国頭地区ミニバスケットボール大会、大北小学校、名護中学校、安和小学校)(5回・269人) ・家庭教育支援フォーラム等の研修会の開催(子どもの夢に向かって、より良いスポーツ活動を考える)(1回・93人)	成果及び反省点 学校の授業参観やスポーツ大会に合わせ保護者や指導者を対象に「親まなびあいプログラム」講座を実施し、実施校校長や参加者から好評を得ている。
			目標値	300人	目標値	300人	実施値	510人		
	② 子育てについての課題や悩みを解消するため、地域や学校と連携した講座の実施		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 子どもの発達段階に応じた子育てについての課題や悩みを解消するため「乳幼児期」「学童期・思春期」講座を学校と連携して実施。		社会教育指導員(3人)を中心に、前年度中に全小中学校にアンケート調査を実施し、各学校から要望のあった11校にて課題解決のための講座を行った。				市民アンケートや学校アンケートを基に講座を企画し、地域コーディネーターの協力で周知もうまくいったと考えられる。			
	成果指標	課題別子育て講座回数	平成30年度	目標	15回	平成27年度	目標	12回	取組概要 (学童思春期講座11回)大切な心とからだ:94人・すべてにありがとう:341人・笑顔あふれる親子の関わり:593人・火星人の取り扱い説明書:80人・寝る子はでいきやーないんどー:129人・子どもの可能性を育む子育て支援:37人・言葉の力～落語を通して～:199人・絵本の世界から家庭教育を考える:18人・わくわくサイエンス教室:54人・子どもの笑顔を引き出す親のかかわり:75人・小さな頑張り大きな未来～子どもを伸ばす大人の関わり:96人(乳幼児期講座)親子でリトミック:17人	成果及び反省点 学童思春期講座については市内全小中学校からアンケートを取り、要望のあった全11小中学校で講座を開催出来た。
			目標値	15回	目標値	12回	実施値	12回		
	③ 「家庭の日」「早寝・早起き・朝ごはん運動」や「6:30運動」の推進		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 学力向上推進委員会社会力育成部会にて、「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」「家庭の日」の啓発活動に取り組む		各中学校区学力向上推進委員会で「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」「家庭の日」について啓発を行う。また、防災無線による6時30分の時報放送を実施している。				学校と家庭、地域社会が連携し、家庭・地域の教育力を高めると共に、幼児児童生徒の健全育成が必要なため			
	成果指標	社会力育成部会の開催回数 早寝が習慣化している児童生徒の率 早起きが習慣化している児童生徒の率 朝ごはんを食べている児童生徒の率 6:30運動の周知率(小中学校、PTA、区)	平成30年度	目標	4回	平成27年度	目標	4回	取組概要 学力向上推進委員会社会力育成部会にて、「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」「家庭の日」の啓発活動に取り組む方針を確認し、地域懇談会では「家庭の日」「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」等について、保護者だけでなく地域の方々への取り組みの紹介や意見交換を行った。	成果及び反省点 市内小中学校からは、子ども達の生活習慣の確立や保護者の家庭教育の意識向上に役立っていると好評を得ているが、部活動との連携が不十分との声もある。
			目標値	4回	目標値	4回				
目標値			95%	目標値	95%					
目標値			80%	目標値	80%					
目標値			95%	目標値	95%					
目標値	100%	目標値	100%	実施値	4回 93.20% 77.51% 90.59% 43%					
④ 弁当の日の実施		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容: 弁当の日を実施することで献立づくり、買い出し、料理、調理、片づけまで、子どもが1人でつくることによる食への興味を引出し、食物、食肉などその命をいただき、命の尊さ、そして料理をつくる人、ご両親、給食センターで働く調理員、職員に関係する方々に感謝の気持ちを育む。		小中学校内の食育授業や講演会等とおして弁当の日の実施を啓発しており、H26年度には4校の実施があった。				食育教育の一環として、市内の小中学校にて実施しているが、全校実施には至っていない。				
成果指標	弁当の日実施校 弁当の日に関する講演会	平成30年度	目標	21校	平成27年度	目標	7校	取組概要 「子どもがつくる弁当の日」の提唱者「竹下和男氏」の講演会開催(参加者51名) 【実施校】屋我地小学校、真喜屋小学校、屋我地中学校、羽地中学校、名護中学校、屋部中学校、久辺中学校	成果及び反省点 目標であった7校で実施を行った。平成30年度までの全校実施に向けて講演会等とおして啓発を行いたい。	
		目標値	21校	目標値	7校	実施値	7校			
目標値	1回	目標値	1回	実施値	1回	1回				

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	取組自体はいいが、就学前の家庭教育、特に保護者への子育ての重要性に重点を置いてほしい。6:30運動の周知率が43%では今後の取組を検討する必要がある。弁当の日の実施は本当に子どもが作っているのか疑問なので、講演会も良いが実際に弁当の作り方の授業の必要性がある。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	C
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	家庭教育の充実是最優先課題であり、将来の名護市を占う上でも重要な事業となっている「家庭教育の日」との運動がみられないなど、縦割り行政となっているので、教育委員会の事業全体の統廃合も含めて、整理する必要がある。

具体的施策名	地域の教育力の充実	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ	学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり
					個別目標	1	地域・家庭の教育力の再生
					具体的施策	(3)	地域の教育力の充実

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えていきます。
----	--

① 「子どもの家事業」の推進	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
取組の内容: 放課後の居場所に困っている子どもとその父母を支援するために、地域の公民館等を活用して子どもたちの居場所「子どもの家」を設置し、地域の方々に協力を得て地域の子を育てます。	地域の公民館等を活用し、放課後等における子ども達の安全・安心な環境を設け、地域の方々の参画を得ながら活動などの取り組む。		地域の公民館等を活用し、放課後等における子ども達の安全・安心な環境を設け、地域の方々の参画を得ながら活動などの取り組む。		行政、関係団体との顔合わせ・事業説明 ・各区長会へ事業説明と協力依頼 ・定例会(11回) ・研修会「普通救命講習研修会」(13人) ・研修会「ADHD・LDを持つ子ども達への支援について」(34人) ・研修会家庭教育支援フォーラム「子どもの夢に向かって、より良いスポーツ活動を考える」(93人) ・研修会「皆で学ぼう！困り感を持つ子どもへの接し方」(73人) ・子どもの家19か所の開所・運営 ・さくら祭り特設子どもの家の実施		支援者の変更や会場の確保の問題により開所できなくなった。新規に開所した子ども家については、学校からの要望や地域の支援者の協力により開所することができた。	
成果指標	子どもの家実施数	20か所	20か所	実施値	19か所			
② 「学校・家庭・地域連携事業」の推進	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容: 学校・家庭・地域の教育力を向上させ、地域全体が一体となって子どもたちの健全育成に取組むため、教師・保護者・地域住民が相互に交流を行い連携する体制を充実し、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の充実を図り、地域住民がサポーターとして学校の教育活動を支援する取組を推進する。	教師・保護者・地域住民が相互に交流・連携することで、住民等の学習成果の活用機会の充実を図り、学校の教育活動の支援に取り組む。		教師・保護者・地域住民が相互に交流・連携することで、住民等の学習成果の活用機会の充実を図り、学校の教育活動の支援に取り組む。		各学校に地域コーディネーターを配置(10人) ・「学校・家庭・地域連携事業」運営委員会の開催(3回) ・地域コーディネーター情報交換会の開催(44回) ・名桜大学 学生ボランティア交流集会への参加・ボランティア募集 ・地域コーディネーター・子育てサポーター連絡会(2回) (1)「ADHD・LDを持つ子ども達への支援について」 (2)「皆で学ぼう！困り感を持つ子どもへの接し方」 ・読み聞かせボランティア研修会・交流会(2回) 学校支援ボランティア 延べ人数:31,218人 活動数:11,832件		学校によって地域コーディネーターに資料印刷や学校行事の準備などの雑務をさせることがあり、内容によってはコーディネーターへ謝金を支払えない部分もあったため。社会教育課に配置し、適切な管理することで情報共有が強化され、円滑に支援活動に取り組むことができる。	
成果指標	地域コーディネーターの人数	12人	11人	実施値	10人			
	地域コーディネーター情報交換会回数	40回	40回	実施値	44回			
	学校支援ボランティア延べ人数	32,000人	32,000人	実施値	31,218人			
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容:	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
成果指標	目標値		目標値		実施値			
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
取組の内容:	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
成果指標	目標値		目標値		実施値			

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	ア 効果的である
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	A
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	各支所が拠点となることで、学校、地域、家庭がもっと見える関係になればと期待する。
外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	D
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	子供にとって大変重要な心のよりどころなる居場所づくりの本事業が県からの予算が減額されるから事業も減少すると言うのは納得がいかない説明である。お金があれば支援するが、なければ支援しないとするのは、それこそ名護市の姿勢が問われていると自覚すべき。

具体的施策名	社会教育団体の活性化	主管課	社会教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ 学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり
					個別目標	1 地域・家庭の教育力の再生
					具体的施策	(5) 社会教育団体の活性化

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えていきます。
----	--

主な取組	① 各支所の社会教育主事による地域の社会教育団体等の支援・社会教育だより等の充実 取組の内容: 地域の行事等に参画しながら、課題解決に向けた手立てを住民と一緒に考えて、社会教育団体支援を推進する。地域限定広報誌を活用し、情報を届けるだけでなく、広報誌を通じ住民同士が繋がり、地域が元気になるきっかけづくりになるよう情報発信する。	平成27年度現状		現状をもたらした原因							
		キッズダンスサークルの立ち上げや、地域行事のサポート、新規でスタートしたイベントの実行委員会の支援、各支部青少年育成協議会の事業のサポートや新規事業の企画・実施など、積極的に行っている。地域限定広報誌については、屋部支所管内「虹」、屋我地支所管内「やがじ」、羽地支所管内「羽地」を発行している。社会教育だより「心」については、現在は発行していない。		社会教育主事が地域に出向き、地域を元気にする活動を地域の方々との交流や毎月情報を届ける広報誌で奨励し区長等のやる気を引き出すなど、地域が主体的に取り組むよう取り組んだ。社会教育だより「心」については、市民のひろばと同じ内容となっていることから、休止ということとなり、現在は発行していない。							
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		平成30年度	地域住民、社会教育団体が地域の課題や取り組みについて、自ら考え、行動できる形を目指す。広報誌は情報を届けるだけでなく、広報誌を通じ住民同士が繋がり、地域が元気になるきっかけづくりになるよう情報発信する。		平成27年度	地域住民、社会教育団体が地域の課題や取り組みについて、自ら考え、行動できる形を目指す。広報誌は情報を届けるだけでなく、広報誌を通じ住民同士が繋がり、地域が元気になるきっかけづくりになるよう情報発信する。		各支所での社会教育主事の取組: (地域限定広報誌の発行、区長会や各区行事等への参加、地域住民と共に地域イベントや社会教育団体等の事業の企画、運営、実施、社会教育団体への活動支援、学校への支援) 地域限定広報誌各支所に派遣されている社会教育主事により、毎月各支所管内の地域の情報を取材し全世帯に配布しています。		積極的な取り組みにより、地域活動が活発になっている状況もあるが、社会教育主事がどこまで関わり支援するのか、いかに地域が主体となった活動にしていけるか。地域を元気にする取り組みや活動者の声を届けることで、住民相互が繋がるきっかけとなっている。	
			目標値			目標値		実施値		実施値	
		成果指標		毎月1回		毎月1回		毎月1回			
		広報誌の発行									
		② 「名護市青年ネットワーク連合会」「名護市婦人会」「名護市子ども会育成連絡協議会」等の活動の支援 取組の内容: 社会教育団体の活動を支援するため、補助金の交付や指導者研修会を実施している。各団体とともに、時代に応じた組織の在り方や活動内容などについて考えるとともに、団体指導者研修会等を実施し、活動の活性化を支援します。		平成27年度現状		現状をもたらした原因					
		名護市子ども会育成連絡協議会と連携し、各区の子ども会育成者を対象に指導者研修会を実施した。また、名護市青年ネットワーク連合会と名護市青年エイサー祭り実行委員会は、団体統合に向けて検討会議を行い、統合に向けて調整を行っている。		名護市子ども会育成連絡協議会は、加入子ども会の減少により各区子ども会育成者へのプログラムや情報の提供、連携した育成活動ができない状況だった。市子連・社会教育課で連携し育成者研修会を行い、育成者研修と子ども育成活動に取り組むため。名護市青年ネットワーク連合会と名護市青年エイサー祭り実行委員会は、同じ方々が団体役員を兼務していることから、団体間で協議し、平成28年度は名護市青年ネットワーク連合会に団体の統合を予定している。							
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
平成30年度	各団体の指導者等の資質の向上を図るため、研修活動を実施、支援し、自ら考え、自ら行動できる団体を目指す。		平成27年度	各団体の指導者等の資質の向上を図るため、研修活動を実施、支援し、自ら考え、自ら行動できる団体を目指す。		・名護市青年ネットワーク連合会・名護市青年エイサー祭り実行委員会統合検討会議(3回) ・子ども会育成者研修会(2回)※名護市子ども会育成連絡協議会との連携 ・子ども会育成連絡協議会の活動支援 ・名護市青年エイサー祭り実行委員会の活動支援 ・名護市青年ネットワーク連合会の活動支援 ・名護市PTA連合会の新規事業について ・名護市婦人会の活動支援		各区子ども会の育成者と繋がる良い機会となったが、また青年ネットワーク連合会は、青年団体支援に向け一歩踏み出した。市婦人会については、声をかけているが活動が忙しく研修の機会が作れていない。			
	目標値			目標値		実施値		実施値			
成果指標		120人		120人		44人					
社会教育団体指導者研修会の参加者数		12団体		10団体		8団体					
名護市青年ネットワーク連合会団体数		400人		450人		355人					
名護市婦人会会員数		235人		280人		230人					
子ども会会員数											
③		平成27年度現状		現状をもたらした原因							
取組の内容:											
目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
平成30年度			平成27年度								
	目標値			目標値		実施値		実施値			
成果指標											

内部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	ア 適切である
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	ア 適切である
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	B
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	活動の目的、方法が各支部で工夫できると活性化につながると思う。婦人会、子ども会、青年団等の会員の減少や各支部での活動ができない現状では取組の検討が必要である。時代に応じた組織の在り方及び活動内容等を早急に議論する必要がある。

外部評価	目的及び平成27年度の現状に対して、平成30年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成30年度の目標達成のために、平成27年度の目標設定は適切か	イ 適切でない
	平成27年度の目標達成のために行った取組概要は効果的だったか	イ 効果的でない
	平成27年度に得られた成果及び反省点の表記は適切か	イ 適切でない
	総合評価(アが 4=A 3=B 2=C 1又は0=D)	D
	上記評価でイとした理由又は特記すべき事項	22番から33番までの事業は、それぞれ重なる分が多く、全体の整理統合が必要である。青少協、家庭教育、社会教育、中央公民館、各区公民館、地域コーディネーター、社会教育主事など、それぞれの役割、目的などを一度、交通整理する必要がある。